



025920-000-4

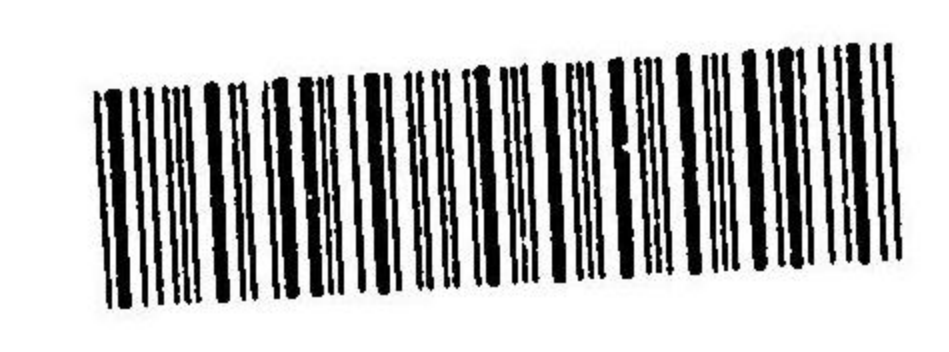
特20-277

鳥取案内記

吉田 八得 / 編

M42

ADC-3494



特
2



鳥取市大工町頭

静観堂書店

鳥取市高等女學校前

博進堂書店



鳥取市大工町頭

静觀堂書店

鳥取市高等女學校前

博進堂書店

洋服調進



四

元恩田町
松尾洋服店
鳥取市智頭街道第



呉服及物古着商

伊谷屋東出店

鳥取市智頭街道第

序

山陰道第一の雄藩たりし舊城下因伯縣治乃中心なる鳥取

市豈に世に傳ふべき事かからむや從來これらの記を

あらねを讀むにふきはしきものなく手軽く新しき書

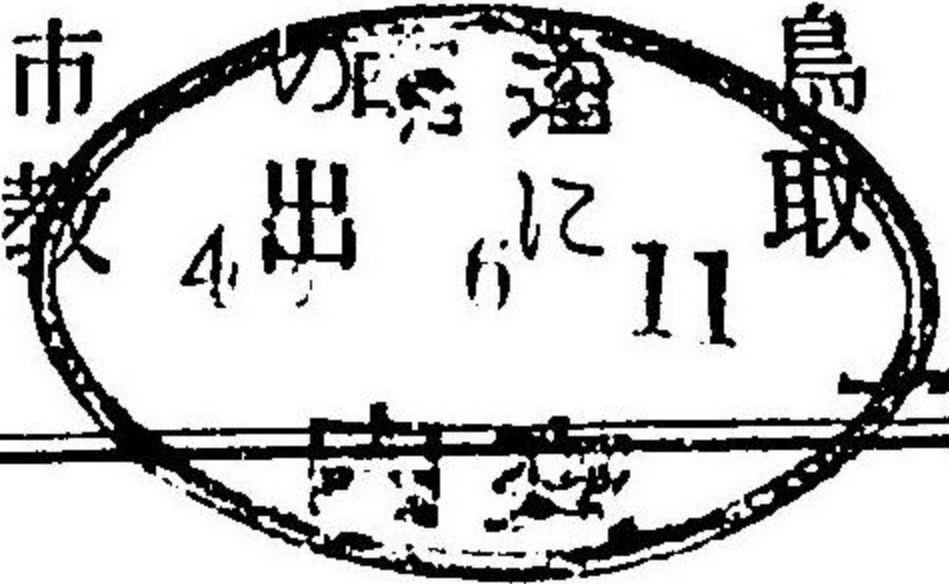
を此事は諸人が久松山の久しくまてる所なりき鳥取市教

育會あゝに見るところありこの案内記をあめりとして遠藤

董氏余に示しぬこれを繙き見るに以そのかみぬるにし鳥

取乃をじ免より近き世までの名所古跡明治の御代の有様

など誰人の目にも楽しく見やすく大いたの事を載せても



らぬことなくよくやうのへるは編者の心づくしの程も見
ぬて久松山の松もよろこび迎ふるならむ抑もこの山は名
におふ鳥取城乃趾うのかみの盛りなりし面影は今も山の
姿に残りてなつめしく市民の朝夕仰ぎて雄心を養ふ所を
り頂に登りて見れば北は日本海の清き海づらゆきかふ舟
の七つ八つおきの小島や氣多の崎は霞の間にあり三面山
まふ山に包まれて田はふ村里廣くひらけ流れて長き千代
川は遙に八上姫の神代の跡なる曳田村神の御子石のあり
てふ靈石山乃あたりより帯の如くに引きて賀露の浦に注

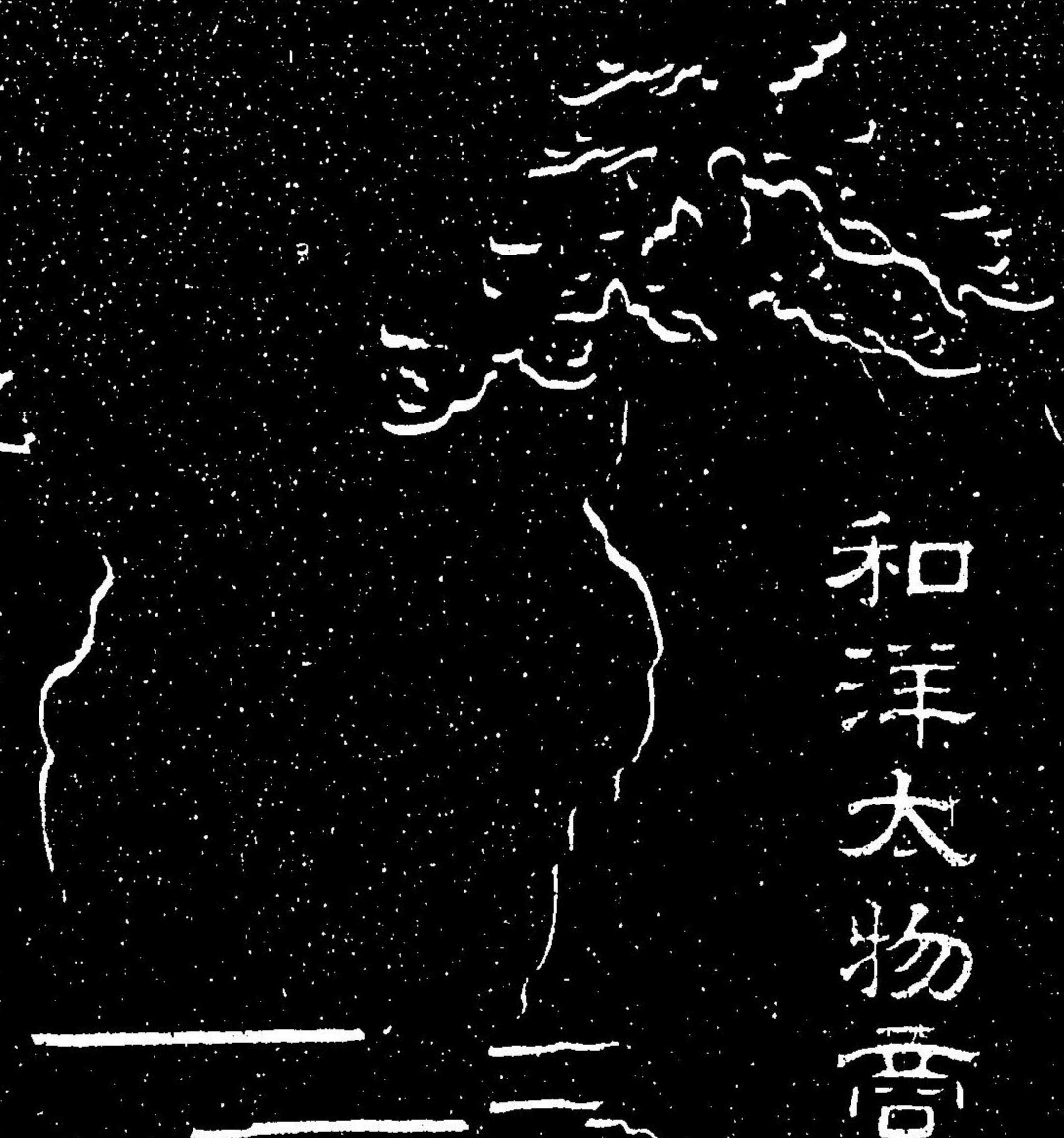
げり湖山の池は鏡の如く大神山の峰乃白妙うめるかとは
やしまれ稲葉の山の峰の松行平朝臣の故事ぞなほしのほ
るゝこの記によりて久松山の松の緑も一とほの色をそへ
幾千萬の歳と共に枝葉榮えひろごりほゝろの下影に豊を
連綿たる市人のなりをひもとよきか昇る朝日のごとくに
いや榮は行くらんと末の世永くたのしうてかむ

明治三十九年十一月あるそ

鳥取市長 尾崎武久

鳥取案内記目次

鳥取沿革	一
鳥取城趾	五
交通	六
市街	一三
方言	一六
官衙	一八
學校	二三
病院	二七
名勝	二八
神社	四二
佛寺	四九
重要物産	六八



和洋大物齋

鳥取市若櫻町通

衣川百足齋

店

公共團體	七二
謝 薦 社	七三
銀行、會社、組合	七九
旅 館	八三
醫師、辯護士	八五
名 家	九一
各 興 行 場	



和洋太物齋

鳥取市若櫻町通

百足

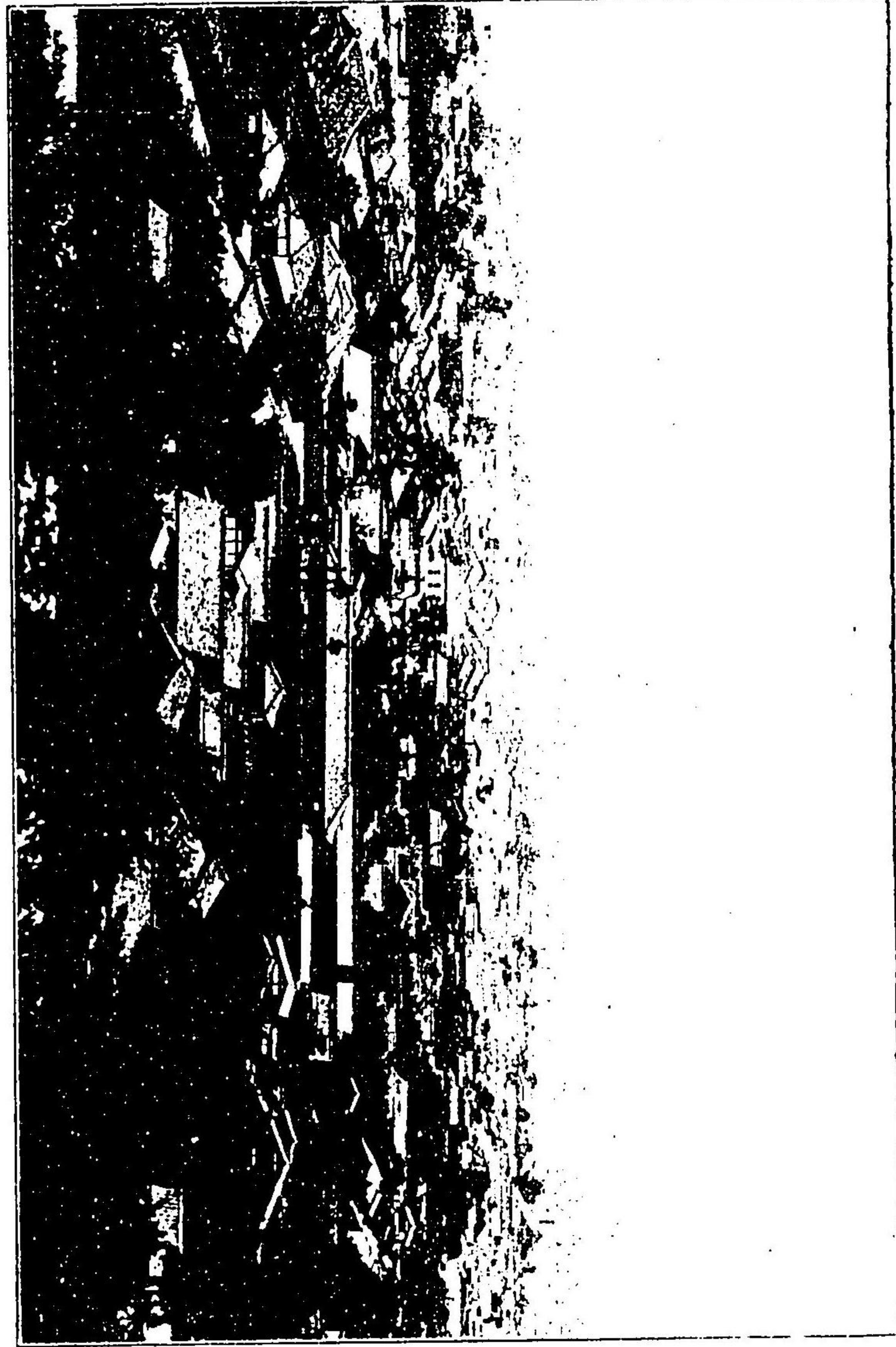
衣川齋

店

各員目録	九
序	八五
第一章	八二
第二章	七九
第三章	七七
第四章	七三
第五章	七二







取 寄 取 寄

創業天保元年



第五回内國勸業博覽會褒賞受領

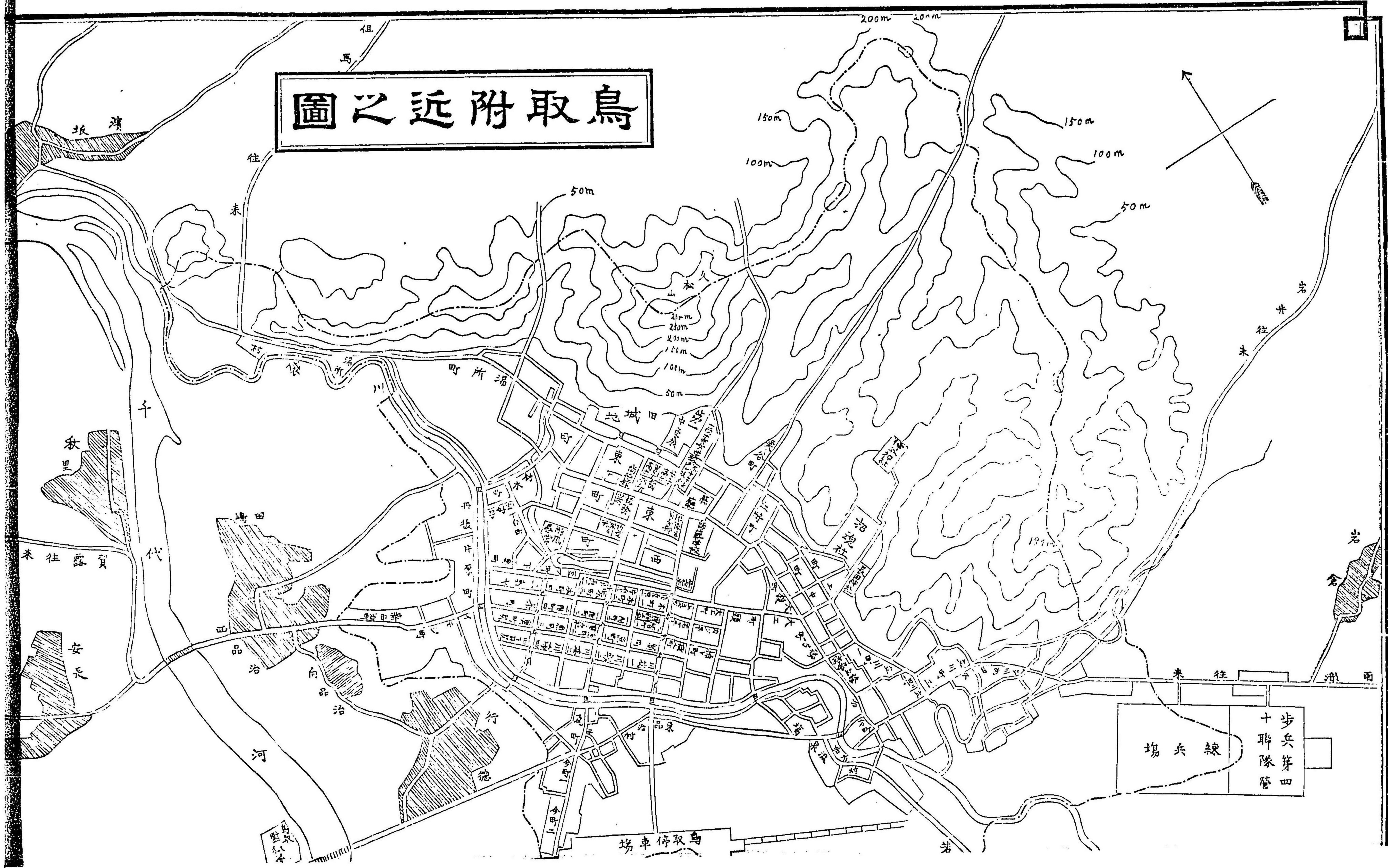
紅白羊羹
 戦捷紀念製菓
 末廣
 ニ尋饅頭
 カステライ

鳥 取 市

ふたニ ひろや 屋

川 端 四 丁目

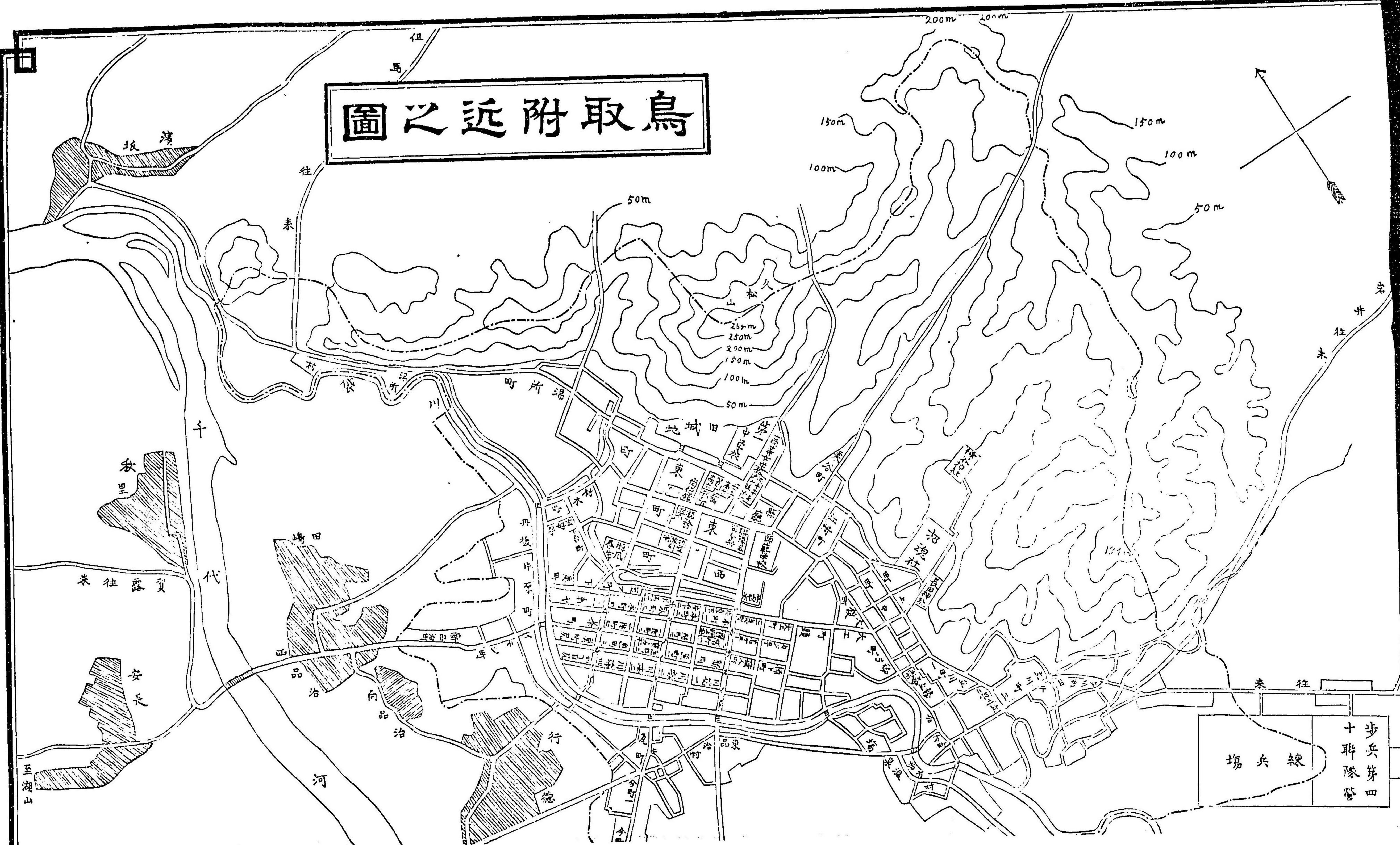
鳥取附近之圖



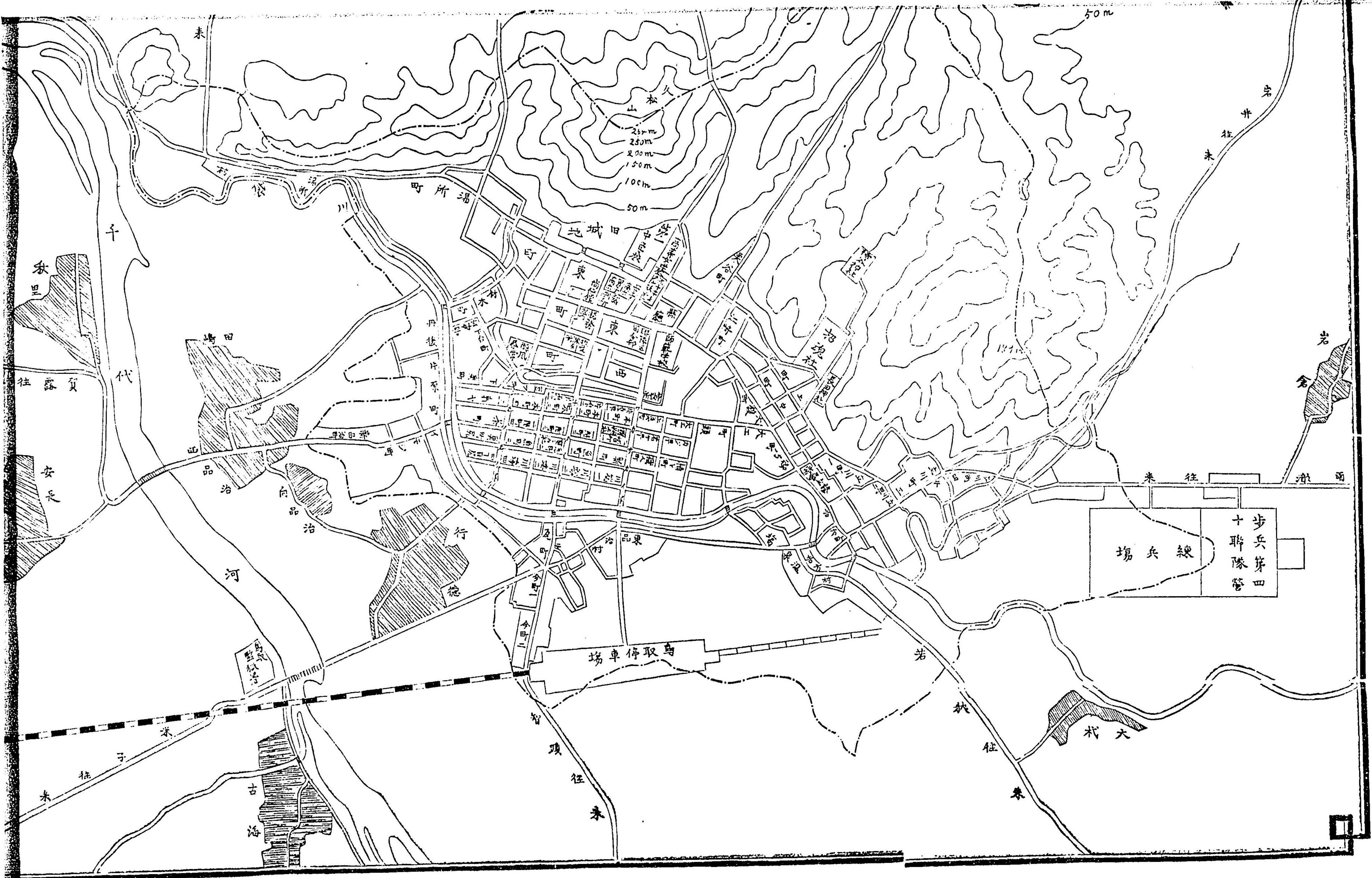
步兵第四聯隊
練兵場

鳥取停車場

鳥取附近之圖



步兵第四聯隊營場
練兵場



未

50m

山

280m

250m

200m

150m

100m

50m

千

糸

往露

代

湯田

品

治

行

場車停取島

場兵練

步兵第四
聯隊營

岩

往

往

島

米

往

古

海

項

往

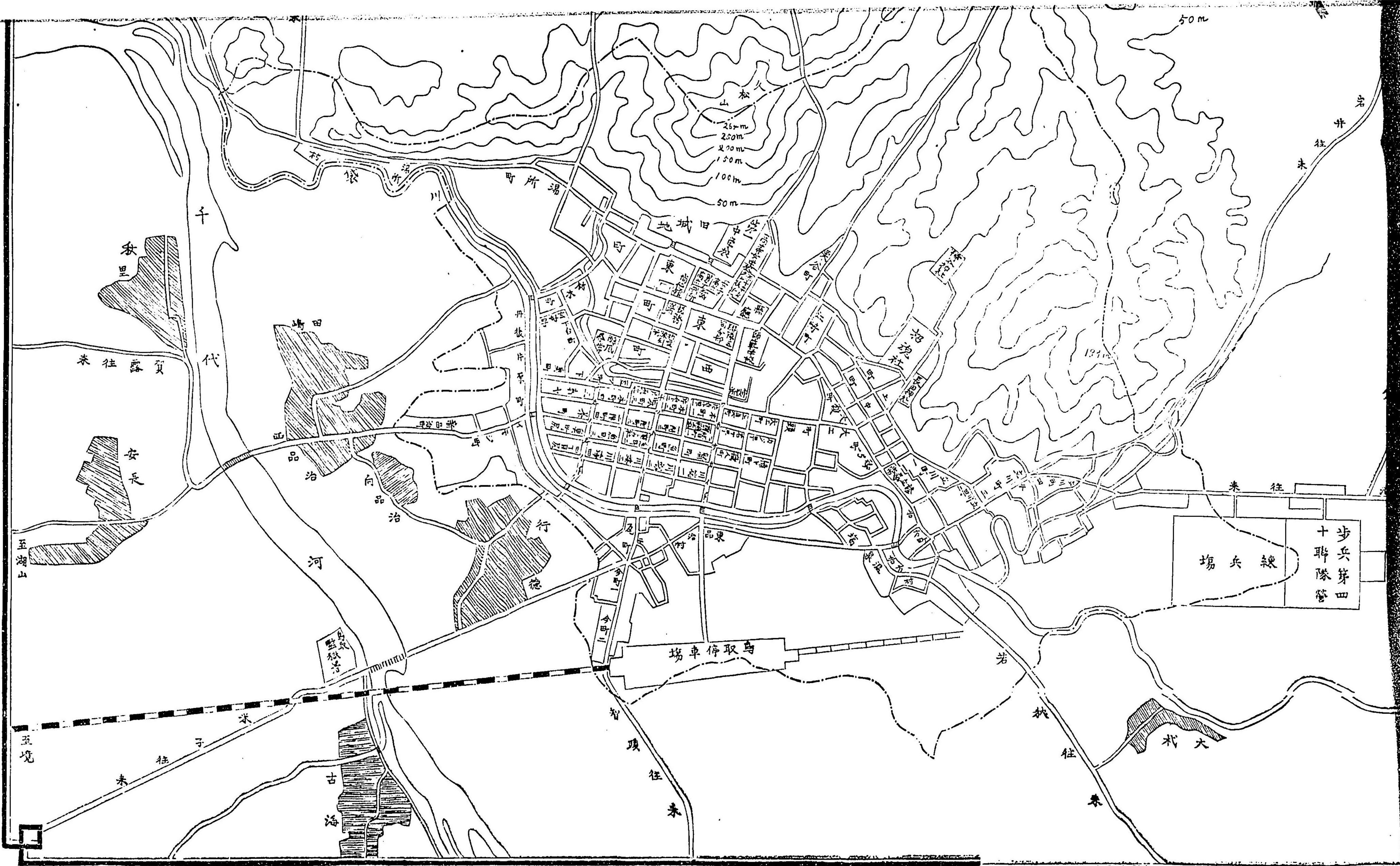
若

往

往

大

米



50m

松久山
250m
200m
150m
100m
50m

安里

未往露賀

安長

至湖山

代

品治

品治

河

監獄

至境

未往

子

未

古

海

湯所町

丹波

行徳

場車停取島

智

頂

未

旧城地

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

西

東

未往

練兵場

步兵第四聯隊

若

往

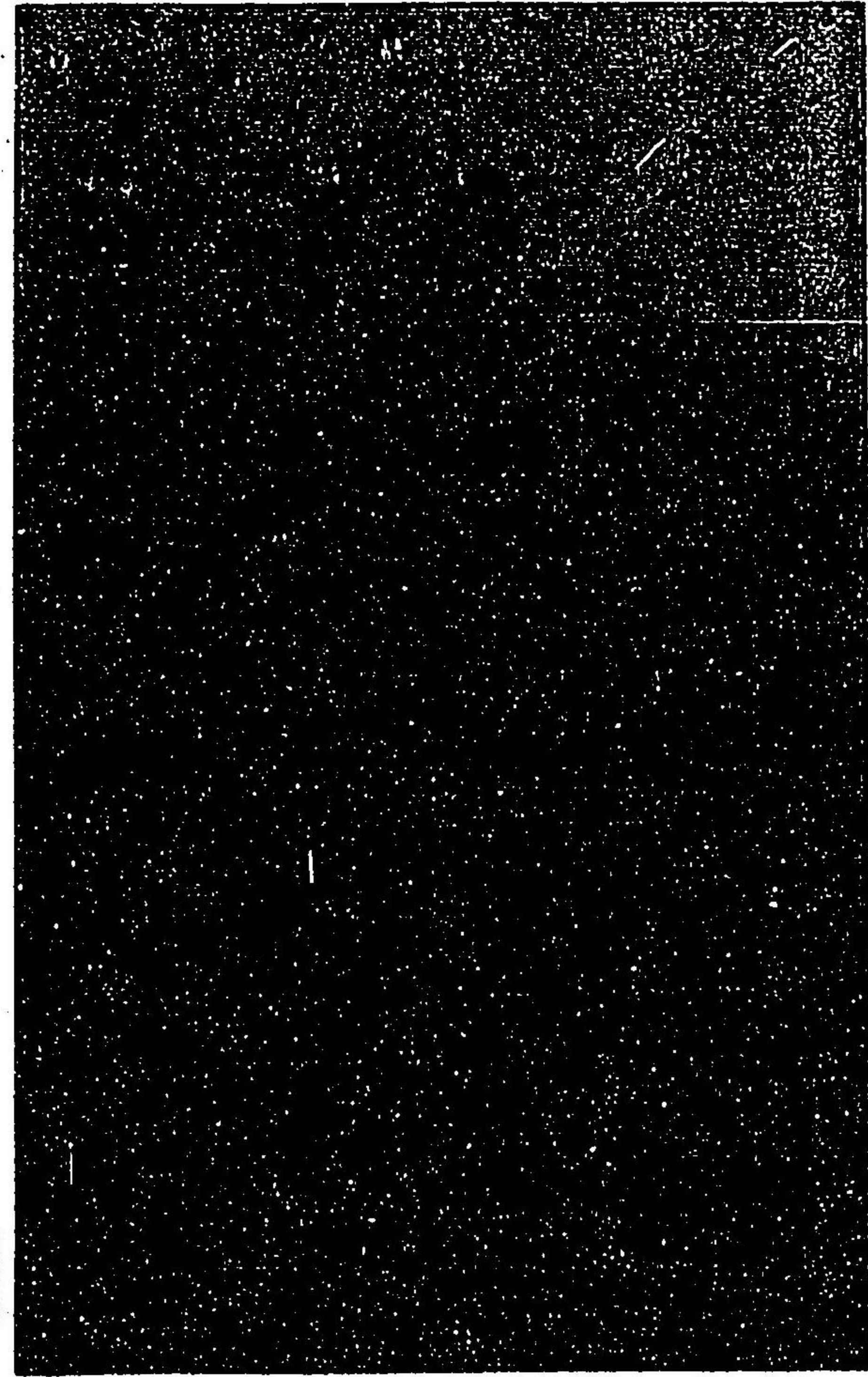
未

大木

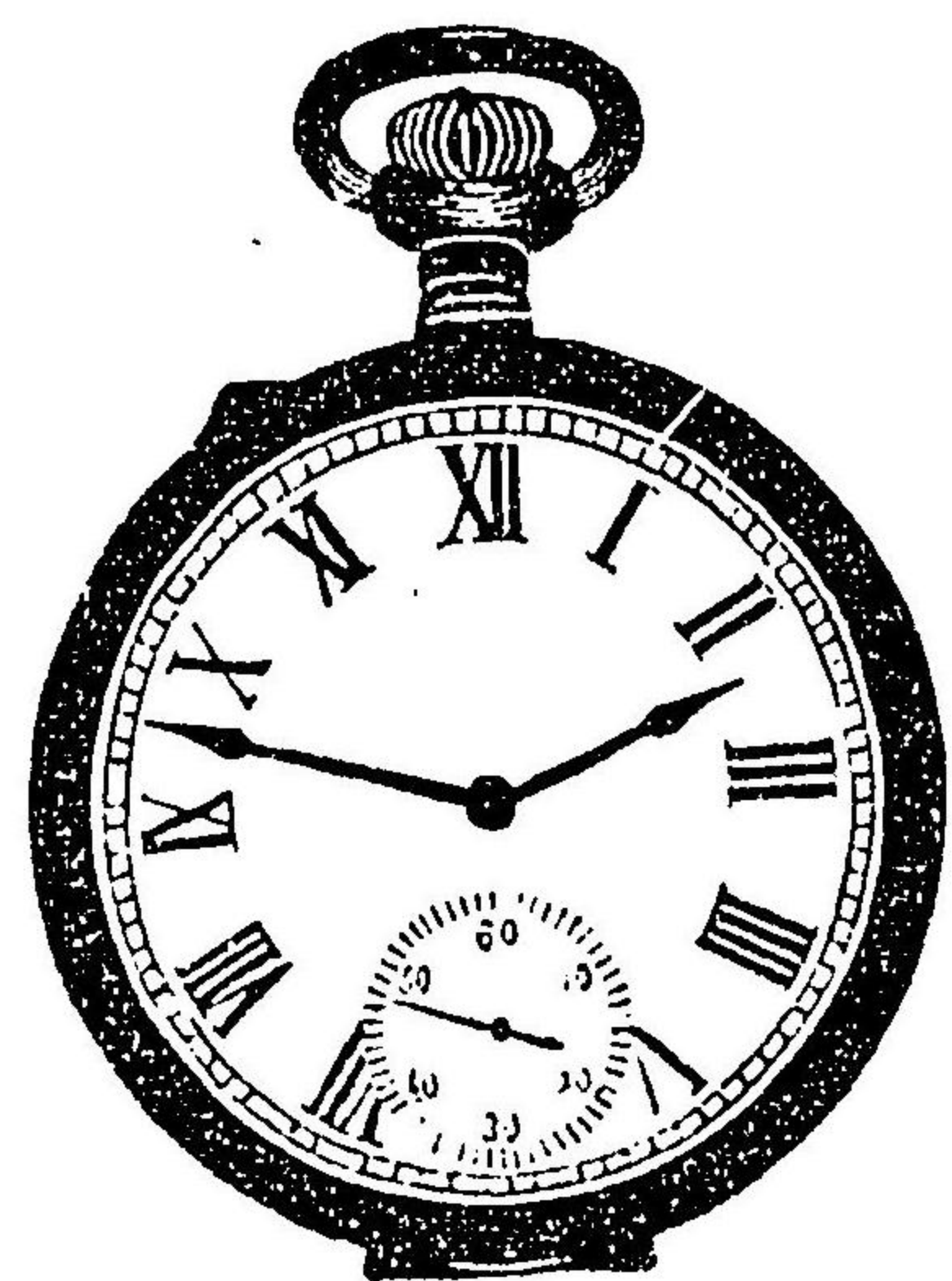
岩

往

未



るむ用信てしに實確も最てに市取鳥
舗計時坪大の筋道街頭智



各國時計商

并ヒ
修 覆 所

營業種目

貴金屬美術、金側、銀側、
象ガン、七寶側、白銅、
ニツケル側、振時計、置メ
サマシ時計、金、銀、赤銅、
ニツケル鎖、磁石、正午計
其他附屬品一切

鳥取市智頭街道筋火ノ見下

久米屋時計店

ONE-PRICE.
しき引附札正

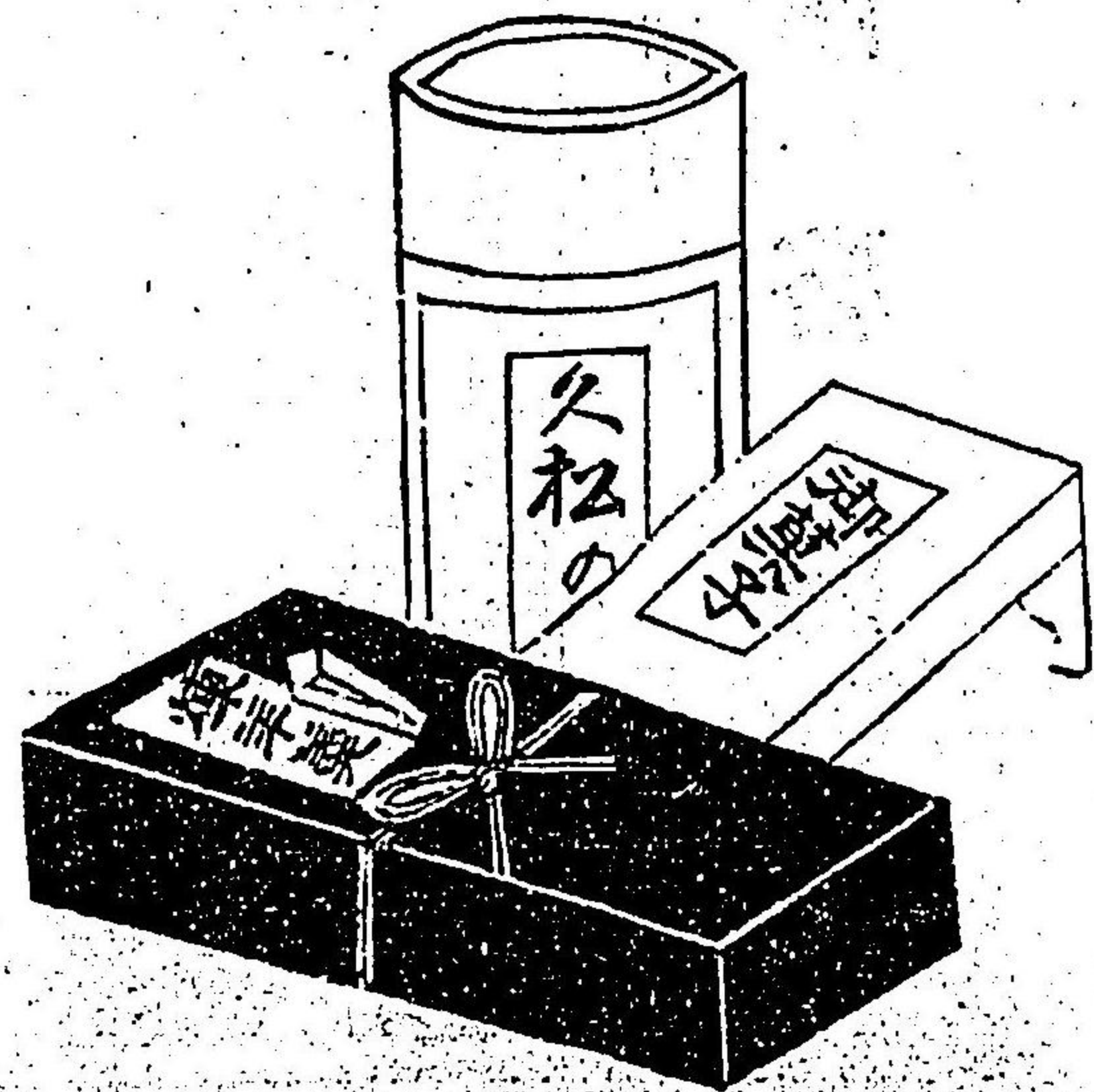
世界最小の時計店
世界最大の勉強店

大坪時計舗

第五回國內勸業博覽會褒賞受領

字部の露
久松の露
加美羅
白羊羹

和洋珍菓



陸軍御用商

全上町

鳥取市川端四丁目
米谷信盛堂本店
米谷信盛堂支店

特別廣告



出荷迅速

取引確實

- 弊店製造ノ鉛印狀袋ハ國産ノ精紙ヲ撰ビ「アヲビヤ」口付糊等ハ吟味シアルヲ以テ完全ナル精品ナリ
- 御進物用御印入御注文ニ應シ調製仕ルヘク候
- 見本御入用ノ御方様ハ郵券貳錢封入御申込次第郵送ス

狀袋製房

- 弊店販賣ノ筆墨ハ京阪名古屋奈良地方有名ナル製造家ノ精品ナリ
- 圖引器械學校用品一式軍隊用品各種取揃有之候

陸軍酒保御用達

平木商店

因州流烟火

鳥取市湯所町

美田雲龍軒

賣藥製造却膏

鳥取市仁毛町
淺井永昌堂

鳥取市川下町

材木商 畚西啓商店



第五回博覽會
諸官
木盃御用達
漆器蒔繪師 奥村幾松
鳥取市掛出町十九番地

材木商
谷西啓商店

鳥取市川下町

膏藥製天造御膏
美田雲龍軒

因州流烟火
美田雲龍軒

鳥取市湯所町

鳥取名産

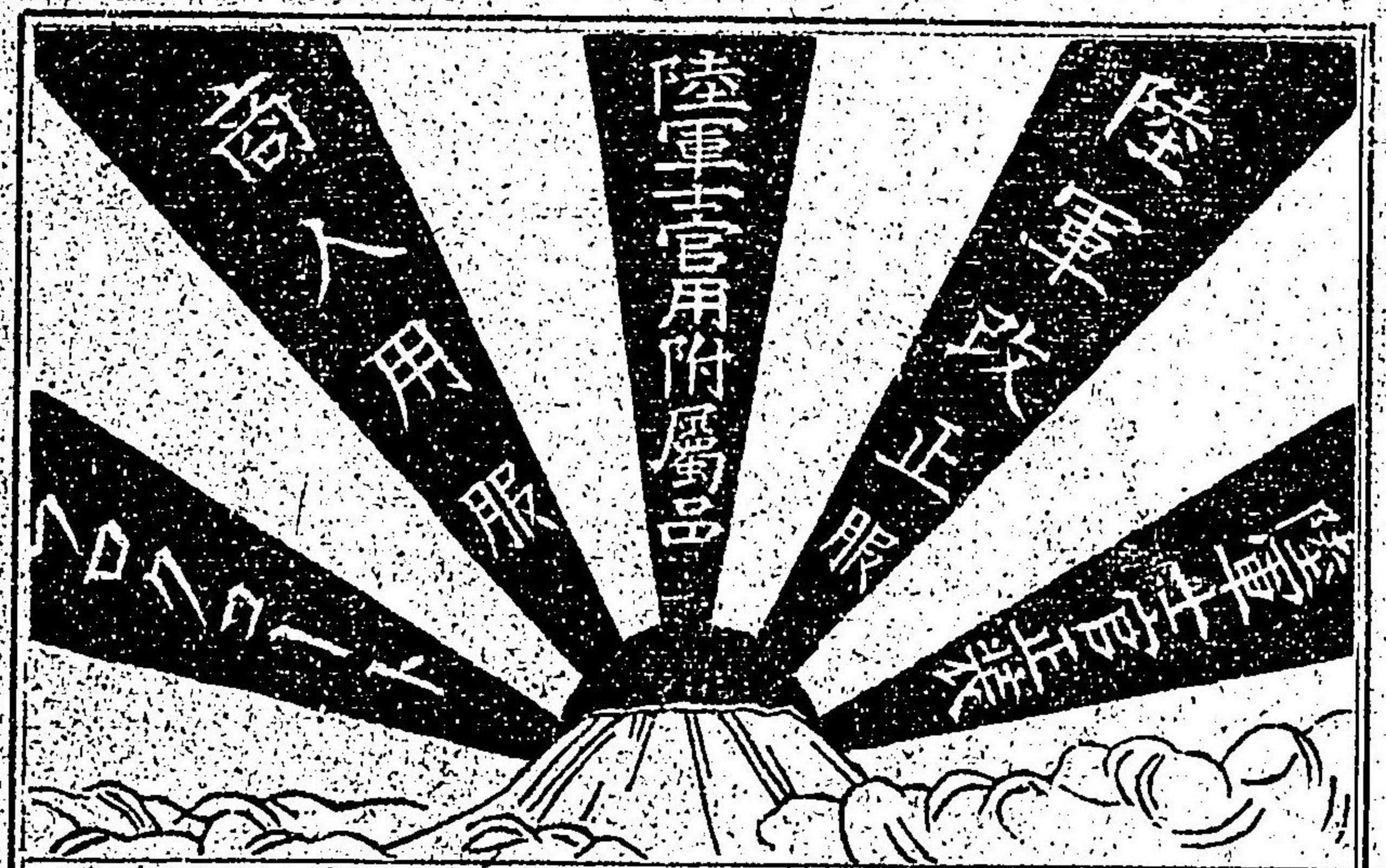
友櫻は需用者の好評を博したり
 友櫻は煎茶用に最も適當を
 友櫻は天下第一品にして他店に類を
 友櫻は鳥取名産にして珍菓なり
 友櫻は美術鑑詰御進物に適す
 友櫻は廉價よして保ばら有り

滋養大王 鶏卵飴
 友櫻茶
 用豆最中

其他珍菓 御進物需 用等に美 術鑑詰箱 詰優美高 尙風味佳 其菓子種 々調製致 し居候間 多少に不 拘御用命 の程奉願 上候

本商店は新珍菓と特色とす

和洋菓子調進所
 鳥取市川端四丁目
 辰巳商店



鳥取市上町
 小川洋服店

第五回國內勸業博覽會賞牌受領

諸酒 木材 樽類

卸小賣

鳥取市丹後町

大村文太郎

鳥取名産

友櫻は需用者の好評を博したり
友櫻は煎茶用に最も適當也
友櫻は天下第一品にして他店に類をなし

滋養大王 鶏卵飴

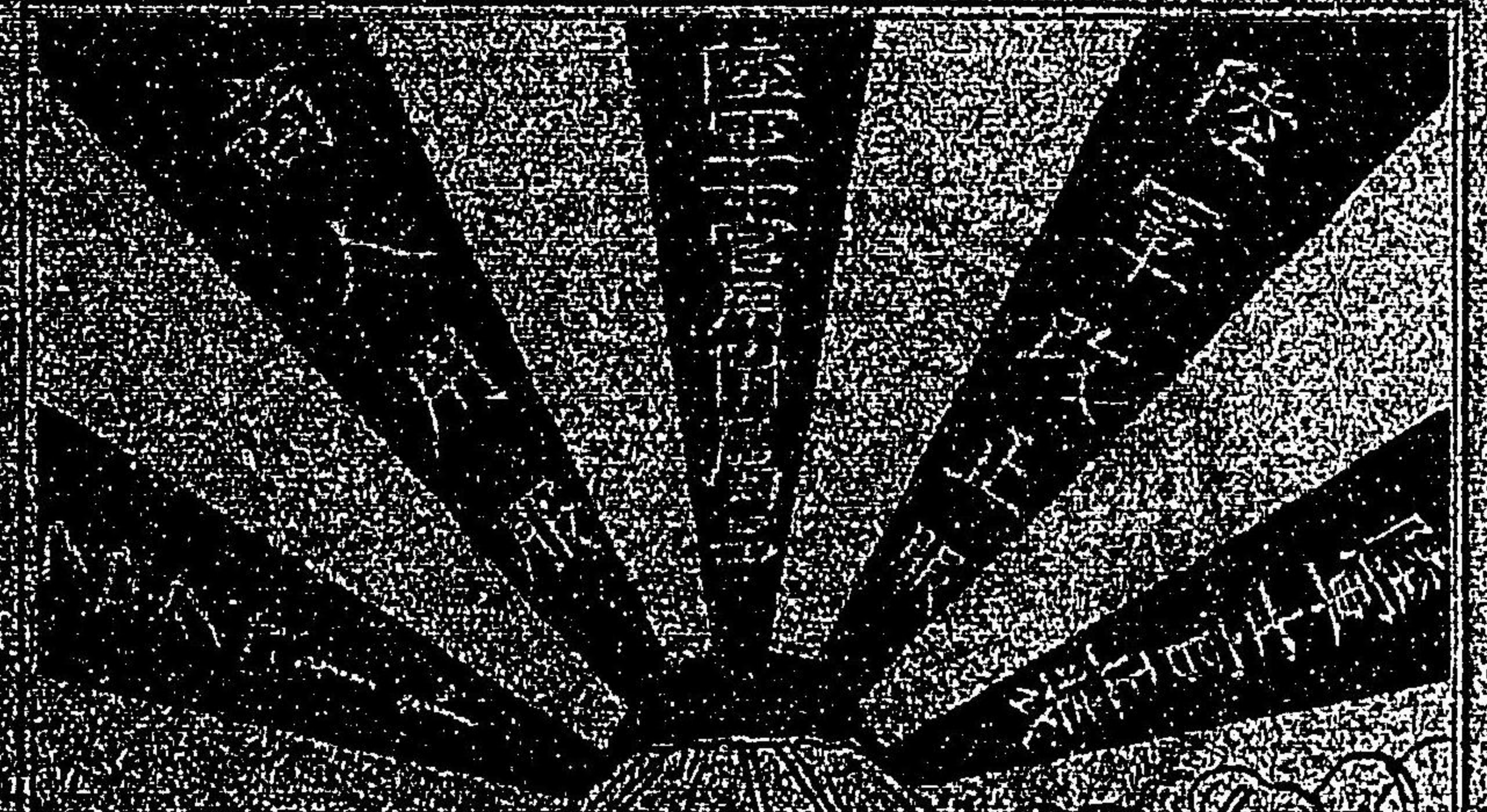
煎茶 友櫻

用豆最中

友櫻は鳥取名産にして珍菓なり
友櫻は美術鑑詰御進物に適す
友櫻は廉價よして保ばら有り

其他珍菓 御進物需 用等に美 術鑑詰箱 詰優美高 尙風味佳 良菓子種 々調製致 し居候間 多少に不 拘御用命 の程奉願 上候
本店は 新蕨 珍菓 特色 すとす

和洋菓調子進所
鳥取市川端四丁目
辰巳商店



小川洋行

第五回内閣勳章

諸酒 樽 類

卸 小 賣

鳥取市丹波町

大村

大村文大

海鏡
原
圃

多所市元龜
木沢 徳善 吉郎

海鏡
原玉

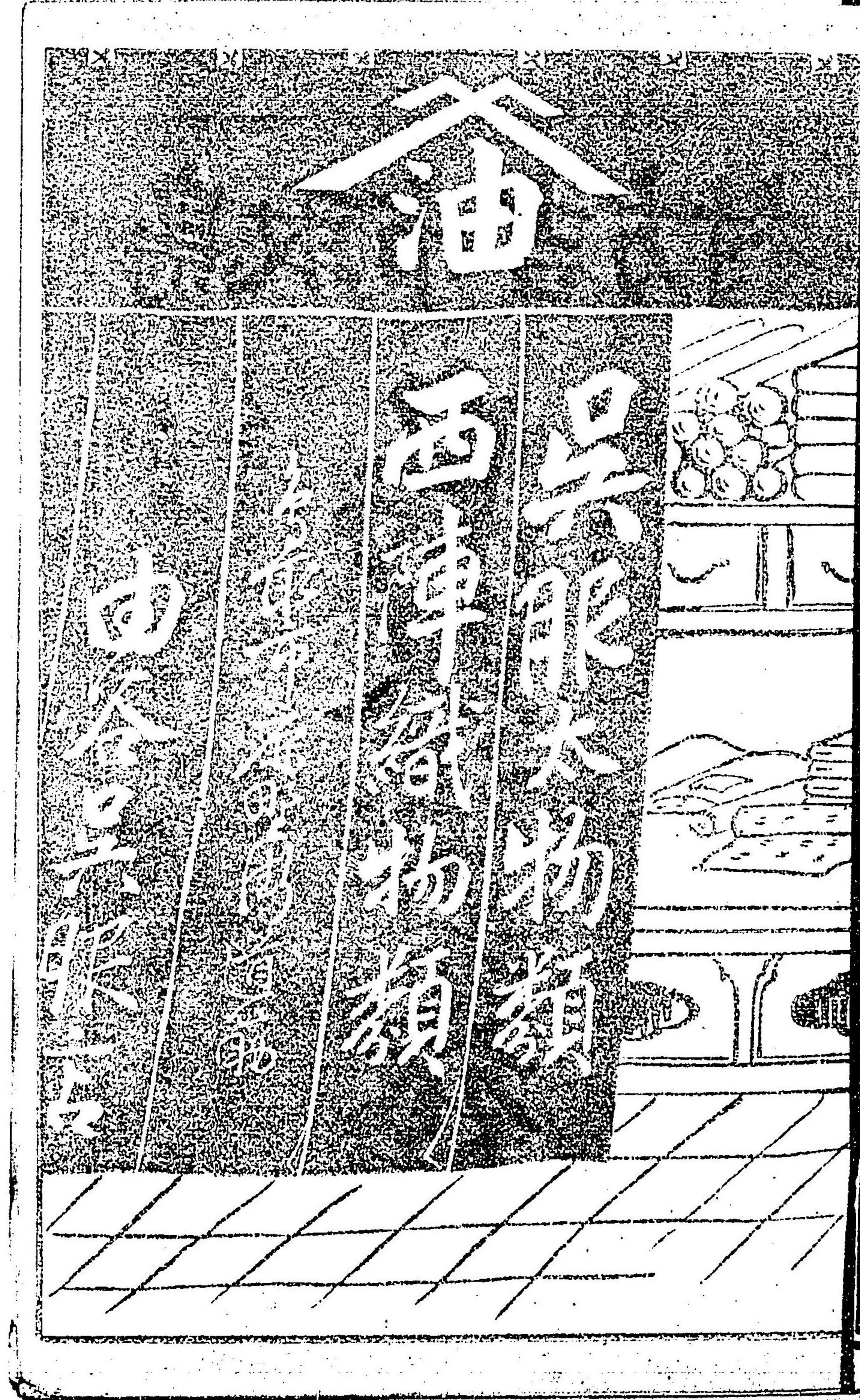
多可市元龜
木下思善古郎

油

吳能太物類

西陣寄物類

由谷口吳張古



鳥取市吉方村

鳥取温泉旅館

▲當館には旅館専用の内湯あり

▲當館の眺望は市内第一等なり

▲當温泉はレウマナス、神経痛、腰痛、腸胃病、子宮病、

咽喉病、諸傷所等に著しき効能あり

館主 荒川 完

鳥取案内記

鳥取沿革

舊史を案ずるに鳥取でよきは垂仁帝の皇子磐田別命年三十に近くしてもの言ひ給はざりしが、偶鶺の飛ぶを見て是れ何の鳥ぞと始めて發語し給ひしを帝大に悦び給ひ天湯河手舉を遣はしらの鳥と尋ね求めて貢せしめ給ひ姓を鳥取造と賜ひしより出で此姓の人當地に來ひて住居せしか又ば此地を領せしかによりて自ら郷名となりしものなるべし。又俗説に昔此地には大なる沼澤ありて水鳥常々游泳せるを近郷の人樂ひ來りて之を捕獲しけるゆゑに名けしものとも言へり。

古の鳥取の郷は今の縣廳附近の一區あるべしとなり。其城邑とありしは今より三百五十年前なり。古昔當國の主府は今の若美郡國府宇聽村邊にて鳥取市を距ると一里あり其當時の町屋、中郷、國分寺、法華寺等の舊趾は現に村名として存せるも懐し。景行帝以後五

朝に歴仕せし世にも名高き武内宿禰は因幡の國造として下向し終に此國府に於て僊化せられぬ。降りて仁明帝の頃在原行平國守となり寛弘中任滿ちて京に歸る。建武中興伯耆守名和長年をして當國の守護を兼ねしめ延元元年王事に斃る。興國元年足利尊氏山名時氏を因幡伯耆の守護とし三男氏冬に傳ふ。嘉吉三年氏冬の孫源貴赤松の亂に死して嗣なく宗家持豐の三男勝豐後を受けて布施城氣高郡に治す。天文十四年其曾孫誠通鳥取に城きて出城とし誠通死し子幼あるを以て宗家祐豐の弟豐定來りて當國を監し布施城に居る。豐定卒して子豐數立つ。永祿年中家臣武田高信誠通の二子を殺し鳥取城に據りて叛く。豐數之を伐て克たす。元龜二年豐數卒して弟豐國立つ。天正二年豊國山中幸盛助と謀り高信を誅し鳥取城に入る。既にして毛利氏來り攻め豊國一たび毛利氏に屬せしが同九年豊臣秀吉大學して來り鳥取を圍むや豊國出で秀吉に投ず。毛利氏の將吉川經家豊國の遺臣と鳥取城を死守す。衆寡敵せず城遂に陥り經家之に死す。秀吉乃宮部繼潤を鳥取に封ず。慶長五年徳川氏池田長吉を鳥取石に封ず。長吉大に土木の業を興し樓櫓城廓を修築す。元和三年池田光政姫路より因幡伯耆三十二萬五千石に移封し鳥取に治す。姫路五十二萬石より鳥取石の城

下に移りしことなれば藩士の邸宅より商賈市廛を置くべき余地なきを以て光政は城市擴張の大設計を案せり。昔時の袋川は現今の寺町掛出町西町等の市内を蜿蜒し街衢を置くに便ちらざるを以て五六町南方に張り出し城を中心として半圓形に新河を開き堤防を築き要害を構へ茲に始めて藩治の基を開きたり。鳥取市は實に斯の如き人工を施して經營せられたるものと知るべし。而るに寛永中光政は備前に同姓光仲侯は備前より因伯三十二萬五千石に移封せられ以來世襲して明治二年に至れり。

光政の鳥取を經始せられたし時の草創に屬し市街も完備せず戸口も稀疎ありしか光仲侯入府以來銳意治を計り城廓市街を完成し千代川の汎濫を防ぐがために長堤を築き松と植しむ。古海松原及び小松原これあり。後世市街は膨脹して袋川外各方面に市店軒を並べ戸口蕃殖し今町新鑄物師町等の名稱を付するに至れり。

鳥取市は因幡國の北方に位し東西二十八町南北一里三丁面積零方里四分七厘七十町四ヶ村戸數六千七百五、人口三萬千六十余を有す。地勢平坦にして北には翠瀾る如き久松山をひかへ南には碧を湛へたる袋川の清流を帯び千代川の長流は市の西方に注ぎ賀露川は其の

北方に流れて日本海に通じ運漕の便あり。國中百貨集散の地因伯二州縣治の在る所にし
て往時は山陰の雄鎮本道第一の都會なりしが昔時天險の稱ありし地は今日交通不便の境た
るを免れず。昔時勇武の風俗は今日頑固に偏し易く維新の際身を王事に致しく多士も亂平
ぎし後は業を失ひて北海道又は東奥等に移住せしもの少からず。彼地に鳥取村を立つると
同時に此地は戸口減少し明治九年遂に鳥取縣を廢し島根縣に合せらるゝに至り一層本市の
凋衰を極めたりしが志士の請願によりて幸にも十五年本縣を再置せられたれば縣下安堵し
市民は歡呼せり。時の縣令山田信道大に道路改修の業を起し山を鑿ち谷を埋り坦途四隣に
車馬相通せしめ縣下二州事業發達の途を開きたり。明治三十二年市制を布き自治制を實施
するに至れり。近時又鳥取歩兵第四十聯隊乃兵營を置かれ驍將勇卒は市中強徘徊し觀覽
たる喇叭の響は湖北の金風に和して頗る人意を強うせり。從て商工業も漸く振興し戸口亦
年々増殖するに至れり。特に山陰鐵道は數年ならずして全通し鳥米間の鐵道は今や鳥取に
接したれば當地が本道の名區たることを期して待つべきあり。

鳥取城趾

山を久松山と號す。鳥取市の北方に位し滿山松柏鬱々として茂生し東は本陣山に西北は雁
金山と連り而して城市は其山麓より南方袋川を擁して人家櫛比せり。太閤記に曰く高山岨
々として獨立し西北は蒼海漫漫として測るべからず。山下に淡川袋川を帯び其便尤もよし。
之れに因りて容易に攻め下すべきやうもあかりけり。宜する哉武田高信は叛臣を以てす
ら此城に據りて十年間誅戮を免れ吉川經家は此城を守りて天下の精銳雲霞の如き大軍を
擧げて臨みし豊臣秀吉は抗し克く半歳の久しき小堪へしを見て此城が如何に天險を占め
地利を有せしかを想像するに難からざるべし。
城は天文十四年山名誠通之を創造し以來數家交替し寛永九年池田光仲侯入城し累世相傳へ
て十四代慶徳侯に至り王政維新に際し首として藩籍を奉還し明治二年八月當城を藩の政堂
に充て侯は城を出で家老鶴殿氏の邸に居る。同十二年命あり城廓を壞たしむ。是に於て二
百余年間地方の壯觀たりし樓櫓閣壁殿榭門墻悉く廢墟とされり。二十三年三月城山を池田
家に拂下げられ二十四年縣立中學校を城内元二に新築せり。其宏壯山陰第一と稱を。以來

學生往來し啣研鑽の區とされり。又其麓に池田家の別館あり。

松城、秋、月

因幡 正増 適處

微霜生三瓦屋

夜色渺無涯

一片松城、月

清輝滿三萬家

鳥取城、歌

出羽

熊谷 清右衛門

松山何其險

城池何其深

依然藩鎮勢

雄峙壓三山陰

世代浮雲變

明月自古今

鳥取城趾

因幡

田中俊民

いにしへの春はいかにと問ひてまし

残るさくらはいはささらねば

交通

鳥取停車場は市の南端東品治村にあり。山陰道樞要の驛にして鳥取市の門戸たり。

停車場の西南棒鼻より南方に向へる大道は藩政以來の上方往來にして用ヶ瀬、智頭等の宿

を経て駒歸の國境を越えて山陽道に出づるを以て之を智頭往來と稱と。車馬の交通最も頻繁あり。倉田八幡宮、長谷觀音寺に詣づる者の皆此の道による。

停車場の東南吉方新道を約貳拾町距て、面影山あり。山の東麓に鹽釜神社あり。此街道は八頭郡安井、若櫻兩驛を経て落折村に至る國道にして馬車の定時往復あり。又若櫻より出す材木の運搬にて人馬の往來甚だ盛なり。之れを若櫻往來と云ふ。

停車場の西方街路は伯耆國米子に至る山陰本道あり。この沿道市街を距ること約一里余にして湖山池あり。古より霞の里とて其名顯る。池の周回三里にして風景絶佳なり此邊池に臨める布施山あり。當國守護山名氏の城趾にして山王社を安す。都人士の參詣甚だ多し。尙西すること里餘にして松原村に至れば南方に岐路あり。是れぞ吉岡温泉場に達する道路ある。

市の西北鑄物師町口は賀露往來あり。約一里餘にして賀露村に達す。賀露神社あり。其の眼下に賀露浦あり。眺望爽快を極む。

市の北方湯所村を過ぎ丸山に出づれば道二つに分れ右折すれば近國に其名も著る摩尼寺

又左に本市より各地に至る人力車流車の賃銭表及里程を案内せん。

鳥取市内賃銭	
一五丁以内	金四銭以内
一十丁以内	金六銭以内
十丁以上は一丁毎に参厘以内の増	

鳥取市より各地に至る里程賃銭	
播州上郡驛へ	廿四里十七丁 貳圓貳拾銭参厘以内
作州津山町へ	十九里二丁 壹圓七拾壹銭参厘以内
縣下濱村へ	五里十六丁 四拾九銭以内
青谷村へ	七里十五丁 六拾六銭八厘以内
橋津村へ	十一里十丁 壹圓壹銭五厘以内
八橋町へ	十六里十六丁 壹圓四拾八銭以内
御來屋町へ	二十一里一丁 壹圓八拾九銭参厘以内

賃銭額	
米子町へ	廿五里廿七丁 貳圓参拾壹銭八厘以内
倉吉町へ	十三里三十三丁 壹圓貳拾五銭参厘以内
岩井宿へ	五里十五丁 四拾八銭八厘以内
浦富村へ	四里卅二丁 四拾四銭以内
那家村へ	二里卅五丁 貳拾六銭八厘以内
若櫻宿へ	七里十五丁 六拾六銭八厘以内
用瀬宿へ	五里十三丁 四拾八銭参厘以内
智頭宿へ	八里四丁 七拾参銭以内

一人乗一人腕 全上先鞭後押は一人毎一里に付金九銭以内。
二人乗一人腕 全上先鞭後押は一人毎一里に付金拾壹銭以内。
坂路泥濘積雪等にして行車困難の時及夜間は一里に付鳥取市内は二割を
其他は壹銭を増すことを得。
客待時間は一時間より付金参銭以内。
一雇切は一日に付金七拾銭以内。

市街

鳥取市は極東東町より極西新品治町まで二十八町極南立川村より極北湯所村まで一里三町ありて街幅端正あり。而して北久松山より南に向へる三道あり。中央は智頭街道右を鹿野

陰陽線理程表

鳥取	湖山	寶木	濱村	青谷	泊崎	松崎	倉吉	由良	八橋	赤橋	下市	御來屋	淀江	熊鷹	米子	後藤	大津	大津
...

表金賃車流

鳥取	湖山	寶木	濱村	青谷	泊崎	松崎	倉吉	由良	八橋	赤橋	下市	御來屋	淀江	熊鷹	米子	後藤	大津	大津
...

本線は當分の内一等客車は連結せず。小兒四歳未満は無賃四歳以上十二歳未満は半賃金に有之。厘位を生したるときは錢位に切上げの事。

街道左若櫻町と云ふ。皆其同名に宿驛に達する國縣道なるを以て古より商賈極比し家屋花麗車馬の往來最も殷賑とす。近時立川口に兵營を置かれしより立川町大工町筋は頗に繁盛を加へたり。

市中特殊の場所を擧ぐれば鹿野街道の朝市智頭街道の夜市又若櫻町菊橋向に興業場等はあり。其他藝妓は本町三丁目に娼妓は瓦町衆樂園内に局限せらるゝは風俗の取締上然あるべきことならん。就中鹿野街道に於ける朝市は袋川に架したる鹿野橋を隔てゝ内外に之れを構へ内市外市の稱あり。陰曆元旦の外は毎日之を開けり。其隣り所の物は蔬菜、瓜果、鳥獸、魚鼈の類より花卉骨董に至るまで露店に陳列せられ新を競ひ鮮を街ひ肩摩雜沓道路もたれま塞がるに至る。古亭和年間諸國繁華の地を相撲の番附に擬して上梓せしものあり。鳥取は幕内の裾の方におりて甲府と合せたりしか其後二三枚繰上げ遂に紀州和歌山と合するに至れり。其故は年内市場の繁昌あるを聞及て鳥取の賑ひは尋常ならずとて改めたるありといへり。

尙左に本市の町村名を掲げぬ。

東町	西町	湯所町	湯所村	栗谷町
江崎町	馬場町	上町	中町	大板町
庵丁人町	御弓町	掛出町	寺町	大工町頭
元大工町	上魚町	片原一丁目	同二丁目	同三丁目
豆腐町	下魚町	鹿野町	下臺町	下横町
玄好町	材木町	鍛冶町	若櫻町	本町一丁目
本町二丁目	同三丁目	同四丁目	三軒屋	桶屋町
職人町	二階町一丁目	同二丁目	同三丁目	同四丁目
茶町	新町	元魚町一丁目	同二丁目	同三丁目
魚町尻	川端一丁目	同二丁目	同三丁目	同四丁目
四丁目尻	藪片原町	川外大工町	東品治村	瓦町
今町一丁目	同二丁目	梶川町	南本寺町	北本寺町
元鑄物師町	新鑄物師町	新品治町	丹後片原町	藥師町

- 大森町 川下町 吉方町 吉方村 立川町一丁目
- 立川町二丁目 同三丁目 同四丁目 立川村 (七十ヶ町、四ヶ村)

方言

本市の方言と訛語亦少からず今左に重なる例を示す又一般に語尾は重くして長く引く癖あり。「おねいさん。おいだいとうだがよう。」の如し。

- ててし。おていさん。(父) たたわ。ねたわさん。(母) あんや。(兄、下男)
- おぢろ。(薪) ぼうふら。(南瓜) とぢがな。(取り處がある)
- だいつう。(華美ある装) よださ。(嫌はしい) (程度を失へること)
- じょうに。(澤山に) もえる。(増殖) しょむ。(人多く場詰る)
- おうすか。れつたいちや。れつしすけちや。(物事の意外なるに驚く感動詞) くるづく。(頭を下げる)

- はうける。(投げ棄てる) おねる。(嘲弄する) ばれる。(興に乗して戯れる)
- ちよつかいごたす。(争ごしかける) てこする。(物事の間に合はずして心急げる様)
- やんちやち。にちやち。(不潔な) しろぐ。(動く)
- えぼ。(先端) きんがり。(禿頭) どりい。(大。多)
- そいごく。(粗略) ちよつきり。(丁度) てんけつ。(頂上)
- ちやへん。ちよひく。(さなる。しむ)。打つ) ひつこ。(執拗)
- はせる。(染つ) ちやま。(償ふ) もうは。(最早)
- わし。(私) ちへん。(指) 其うり。(其折)
- かどろし。(恐ろし) ちりもん。(着物) こうこ。(香物)
- する。(剃る) ちへん。(泥) づるい。(物事が早く出来ぬ)
- あまける。(たはむれる)

官 衙

鳥取縣廳

東町にあり。因幡（岩美、八頭、氣高三郡、鳥取市）伯耆（東伯、西伯、日野三郡）一市六郡を管轄し廳舎は明治十九年の新築にして壯麗なる洋式二階建なり。

鳥取縣第四部

鳥取縣廳舎に接し同構内にあり。其南隅に巡查教習所あり。警察署（九ヶ所）分署（六ヶ所）共合して十五ヶ所を管轄す。

鳥取警察署

藪片原町智頭橋の側にあり。鳥取市及岩美八頭兩郡の一部を管轄し立川町二丁目片原一丁目茶町湯所町瓦町に派出所を置けり。

鳥取縣會議事堂

東町にあり。小路を隔てて縣廳に隣り壯麗なる建物あり。

鳥取縣水産試驗場

縣廳構内にあり。明治三十三年十月の創立にして日尙淺けれども著く漁撈製造養殖に関する試験調査講話傳習及び魚兒介苗の配布并に質問應答等の便を縣下に與へつゝあり。

鳥取縣蠶病豫防事務所

縣廳構内に常設す。該検査を施行せし始めは明治二十年頃にありしが法律の結果によりて定置せしは三十一年四月なり。又毎年時期六月上旬より十二月頃迄を限りて倉吉米子日野の三ヶ所に支所を開き蠶種の精良を圖れり。

鳥取縣農事試驗場

本場は岩美郡美保村大字吉成村鳥取を距る約十町。明治三十五年四月の創立にして作物家畜養蠶耕地肥料農具病理昆蟲等に關する試験并に調査審査設計報告講話講習種苗配付質問應答等の事業を以て農事の改良を指導しつゝあり。

岩美郡役所

岩美郡役所は二十五年四月に創立せり。

東町にあり。部内村数二十九にして役場数二十四あり。

鳥取縣物産陳列場

西町にあり。敷地千五百二十一坪余中央に美麗なる建物あり。庭園には種々の花卉樹木を植へ泉水あり土橋を架し小丘乃上には鳥取縣道路改修の記念碑あり。是亦市中之公園なり。

鳥取市役所

西町若櫻町筋舊城外堀に沿へり。明治二十二年の創立にして七十四ヶ町村を管轄す。

歩兵第四十聯隊

鳥取市の南端立川村を距る約七町の所にあり。明治二十九年十二月一日を以て新設せられ同三十年四月に兵舎新築成り二個大隊之に屯せしが翌三十一年に三個大隊完成せり。當聯隊は中國健兒の集團にして朴直勇武の名風に著る。征露の役、分水嶺、柘木城、遼陽、沙河、奉天等に於て連戦連勝の偉勳ありしは人の知れる所なり。

鳥取衛戍病院

兵營の南方に在り。

鳥取聯隊區司令部

東町にあり。明治三十一年四月一日に創立よかり管轄區域は國幡伯耆美作の一圓及び但馬國城崎美方の二郡にして計一市十三郡あり。

第十憲兵隊鳥取分隊

西町にあり。明治二十九年八月創設同三十年三月より事務開始その所管區域は聯隊區司令部と同じ。

鳥取地方裁判所

東町にあり。智頭街道筋の突當りにして日本式宏莊の建物あり。明治二十四年三月の新築よして因伯兩國を管轄す。

鳥取區裁判所

鳥取地方裁判所と同構内にあり。同時の新築にして因幡全國を管轄す。

鳥取監獄

本署は市の西端を距ること五六町氣高郡古海村千代川の左岸にあり。明治廿五年新築落成し舊獄より移轉す。署内に看守教習所あり。

鳥取稅務署

東町にあり。明治二十九年の創設にして松江稅務監督局の監督に屬し鳥取市岩美郡の全部を管す。

鳥取小林區署

上町にあり。明治二十三年の創設にして廣島大林區署に管内に屬す。因幡一圓を管す。

郵便局

鳥取郵便局は三等局にして智頭街道筋本町三丁目角にあり。巍然たる洋式二階建あり。

明治三十六年五月の新築にして本市の外岩美氣高兩郡の一部を管す。尙瓦町、立川に三等

郵便局あり。

池田家別邸

掛出町にあり。舊藩主池田仲博侯の別邸にして通稱御家政と云ふ。縣下にあり所有地所及ひ寶物の保管をなせり。今また舊城内扇御殿地に宏壯なる別館を新築せんとしてその工事中なり。本邸は東京市麻布區市兵衛町二丁目三番地にあり。

鳥取縣立師範學校

縣廳の向角にあり。舊藩尙德館の跡を其敷地の廣さ實に七千七百坪農業實習地二千七百坪あり。門内に尙德館記の石碑あり。池田慶徳公の建てしものあり。

鳥取縣立第一中學校

學

校

附圖書館幼稚園
孤兒院等

本校は舊藩校尙徳館を繼ぎて開きしものにして明治二十二年舊城内の地を池田家より借り受け校舎を新築せしが三十三年二月火災に罹りて大半烏有に歸せしを直に再建に着手し三十五年新校舎落成す。其結構舊時に倍せり。

鳥取縣立高等女學校

本校は久松山の南麓第一中學校の南隣にあり。三十六年の新築にして其構造壯麗あり。

鳥取高等小學校

久松山に對し舊城内堀端にあり。校舎は二十一年比の建築にして元因幡高等小學校と稱せしものはあり。

鳥取女子高等小學校

男子高等小學校の南隣にあり。明治三十四年鳥取高等小學校の女子部を割きて本校を創

立せり。

醇風尋常小學校

正 品 位 確 實

洋傘製造販賣

鳥取市若櫻町 岩井商店

眞

價

正

本校は舊藩校尚徳館を継ぎて開きしものにして明治二十二年舊城内の地を池田家より借り受け校舎を新築せしが三十三年二月火災に罹りて大半烏有に歸せしを直に再建に着手し三十五年新校舎落成す。其結構舊時に倍せり。

鳥取縣立高等女學校

本校は久松山の南麓第一中學校の南隣にあり。三十六年の新築にして其構造壯麗あり。

鳥取高等小學校

久松山に對し舊城内堀端にあり。校舎は二十一年比の建築にして元因幡高等小學校と稱せしものはあり。

鳥取女子高等小學校

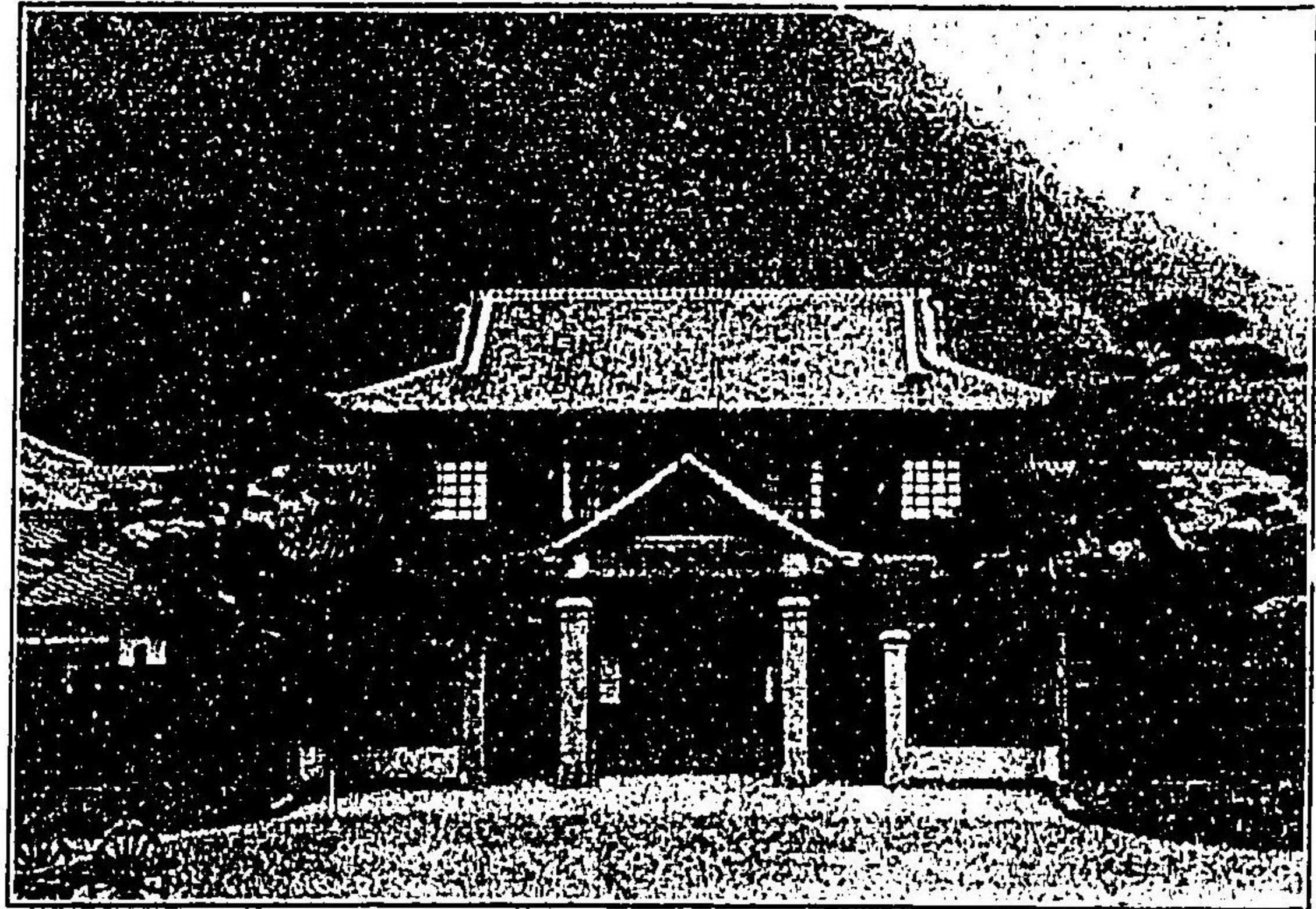
男子高等小學校の南隣にあり。明治三十四年鳥取高等小學校の女子部を割きて本校を創立せり。

醇風尋常小學校





鳥取縣廳



鳥取地方裁列所

今田中雜貨店

鳥取市智頭街道筋



舶來大
雜貨
強勉



鳥取縣立第一中學校



鳥取縣立師範學校

吳服新儀小袖類

洋物各種

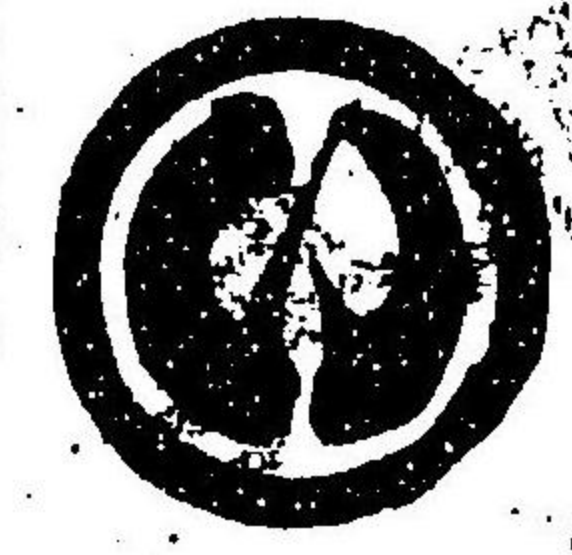
鳥取市立川町壹丁目
福田吉商店

吳服古物
絹古子名



多摩市若狭河内筋川端三丁目

稲村喜平本店



目種

美術石版畫舶來油畫
 教育用繪本玩具
 新繪葉書及附屬品
 幻燈器及映畫
 雙眼鏡晴雨計寒暖計

定國教科用圖書各種

業營

理化學用諸器械
 諸標本諸類
 製鳥獸
 樂器
 運動用諸器械



鳥取市智頭街道筋
 郵便局角リニ軒目
 森 勝 藏



鳥取市智頭街道筋二丁目

稻村喜平本店



吳服古物
 絹古子名

茶商

并二茶道具類

鳥取市川端四丁目

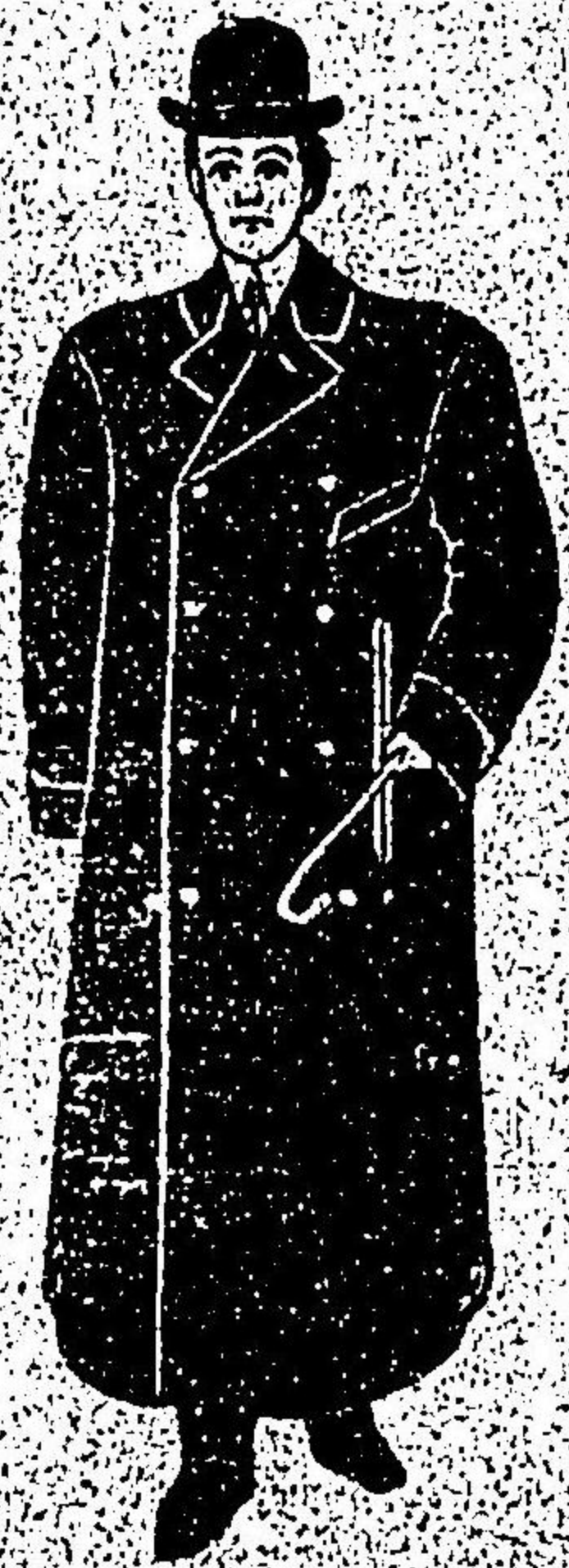
萬屋事

萬井藤治郎

みみはなの
耳鼻咽喉科診療

鳥取市立川町四丁目六拾壹番地

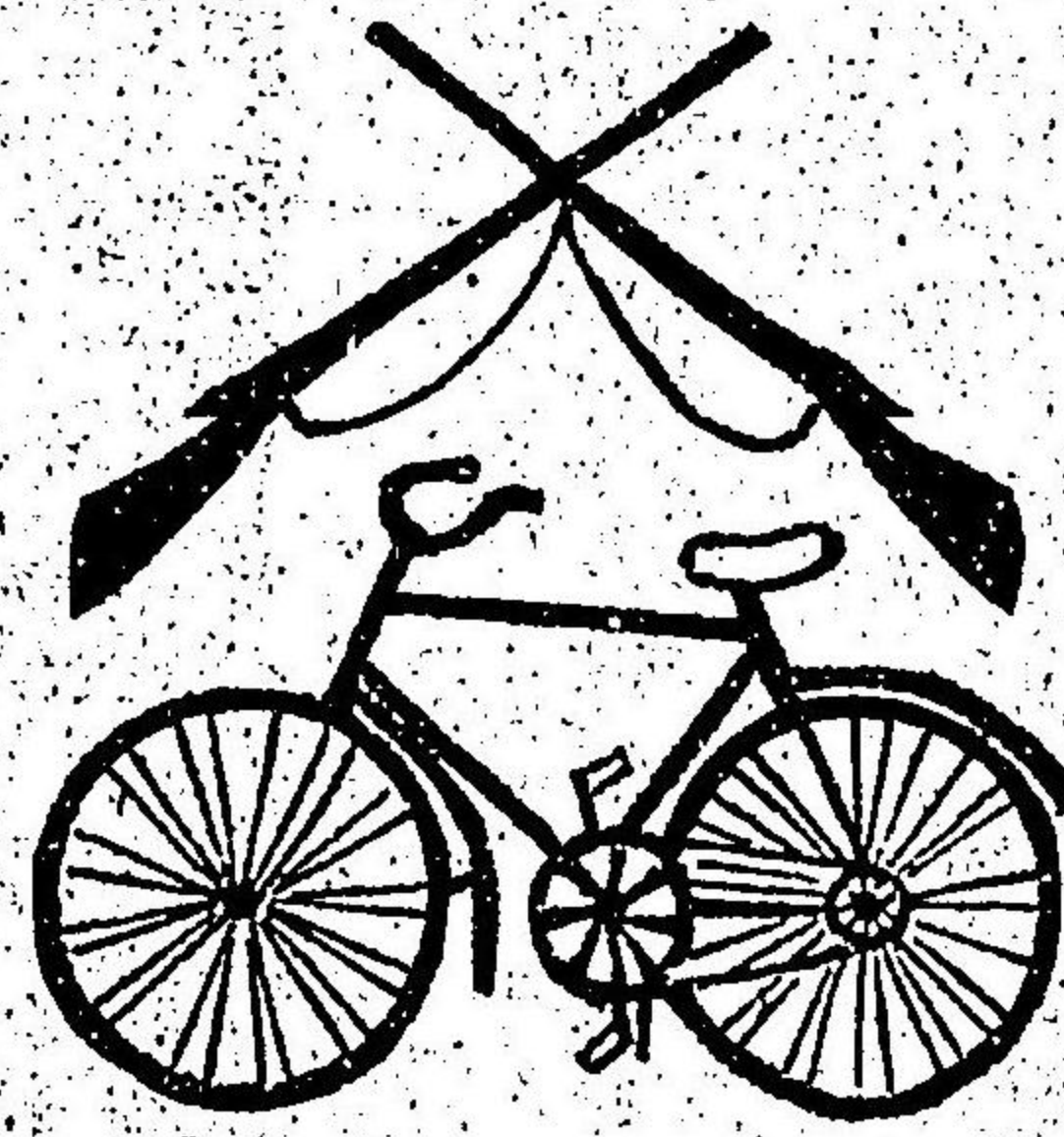
醫士 尾崎秀美



最新流行に應ず

鳥取市
智頭街通筋

伏谷洋服店



銃砲製造及修繕

諸器械製作
自轉車修繕
并二附屬品販賣

鳥取市新町

管鐵工所

萬金物卸賣商

兼
衡器製作修覆
度量衡器販賣

今

鳥取市二階町三丁目

村尾貞治商店

力
梶川
吳服店

鳥取市若槻町通第貳拾

會
席
御料理
鳥取市西町
菊亭

會席

御料理

鳥取市西町市役所前西三入北側

丹

廣

力尾川吳服店

鳥取市若櫻街道筋

會
席
御料理
鳥取市西町
南直

會
席
御料理

丹

廣

鳥取市西町市役所前西三入北側

牧畜業 兼牛乳 搾取業

下總御料牧場拂下

純粋ホルスタイン種牛乳



鳥取市西町 大塩牧場

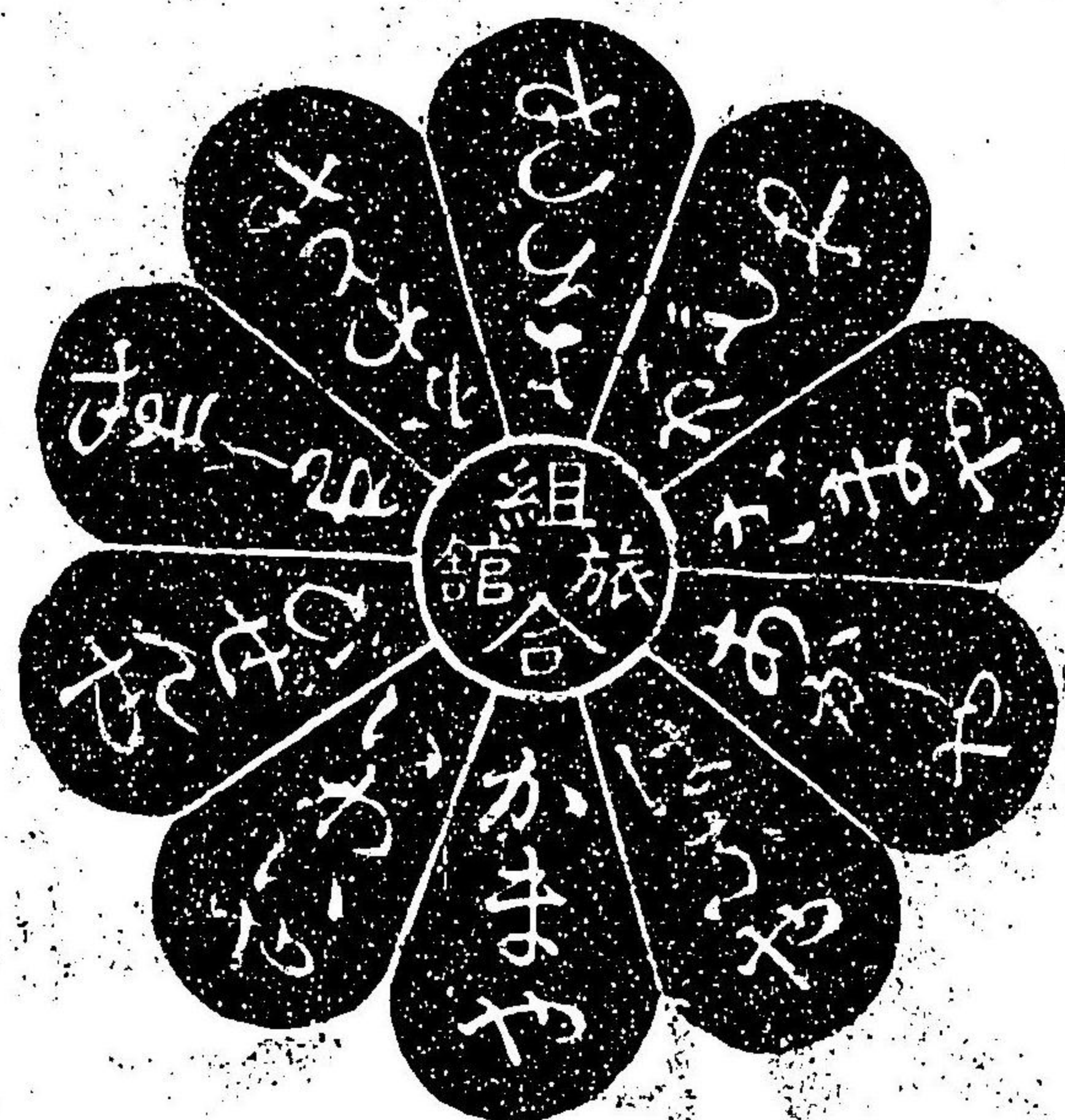
○岩井温泉は世界無比の靈泉にして功能の顯著なる事神の如し
 温泉の發見を貞觀元年より積算すれば本年迄一千四十七年に當れり

即功

癩麻質斯、疝氣、
 疝癢の類、胃病、
 子宮より起る一切の慢性諸症

是等二三を重かるものとし余は温泉案内記に詳かり

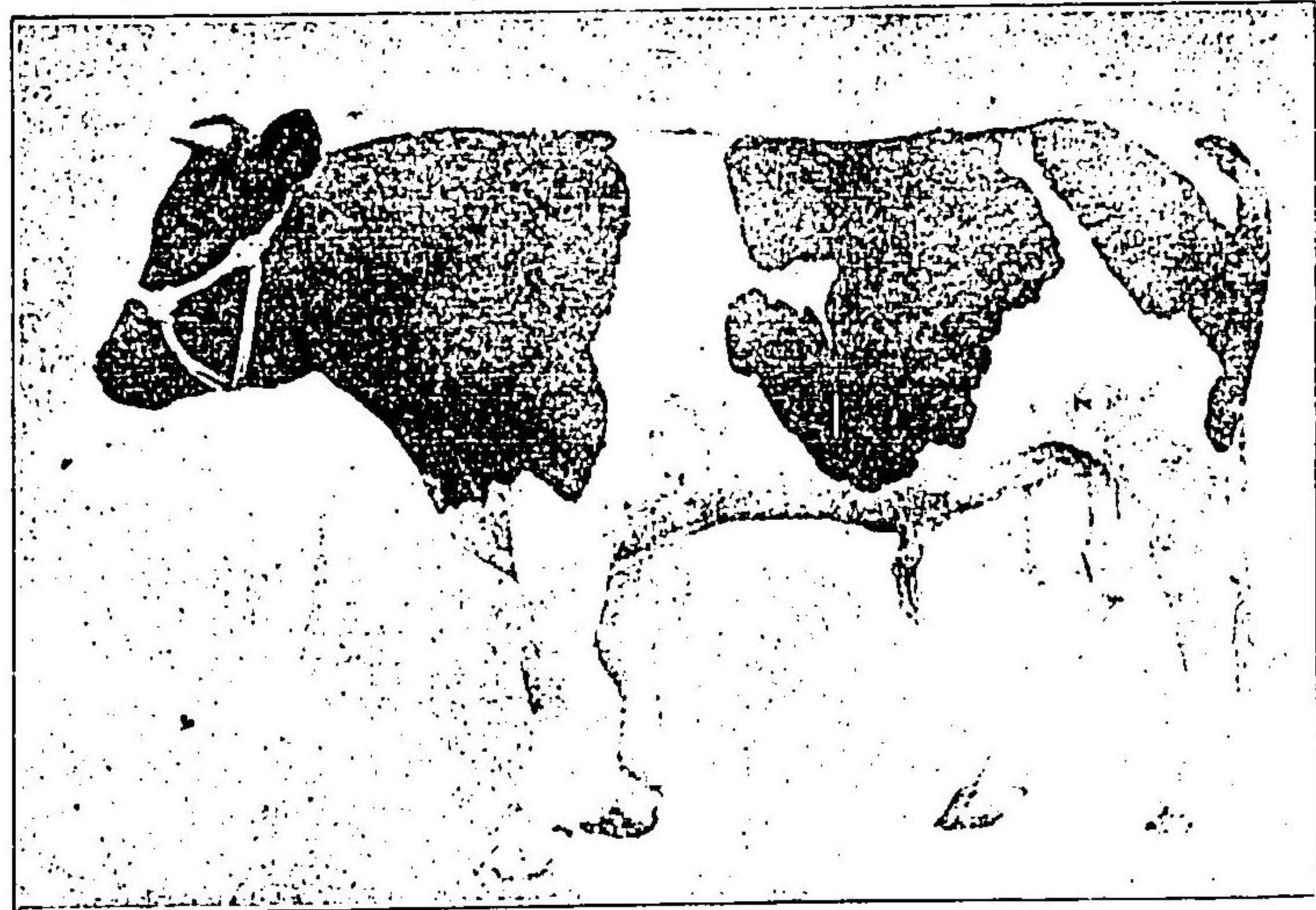
○岩井温泉場は鮮魚菜果に富み随つて物價も低廉なり



牧畜業 兼牛乳 搾取業

下總御料牧場拂下

純粋ホルスタイン種牛乳



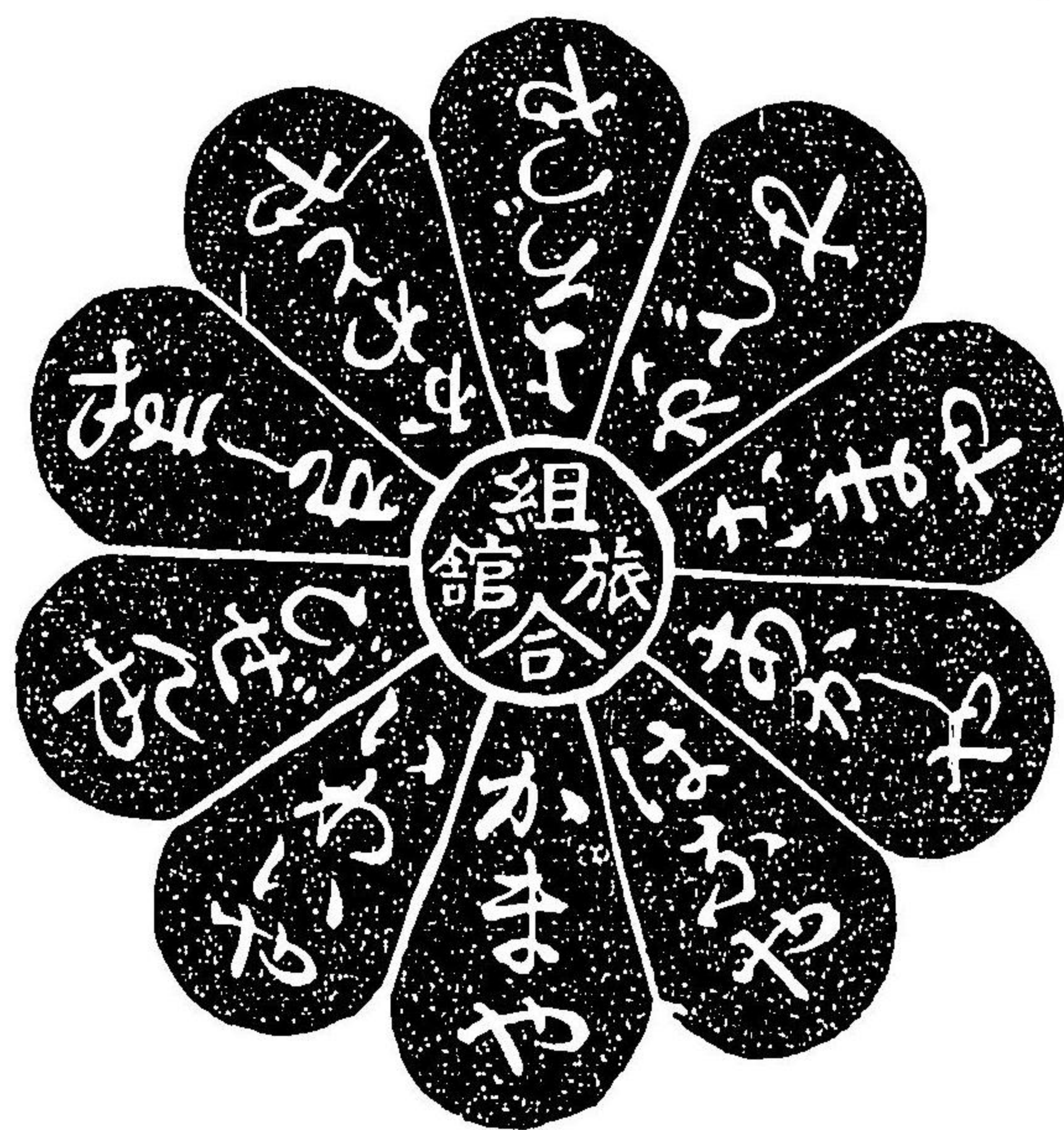
鳥取市西町 大塩牧場

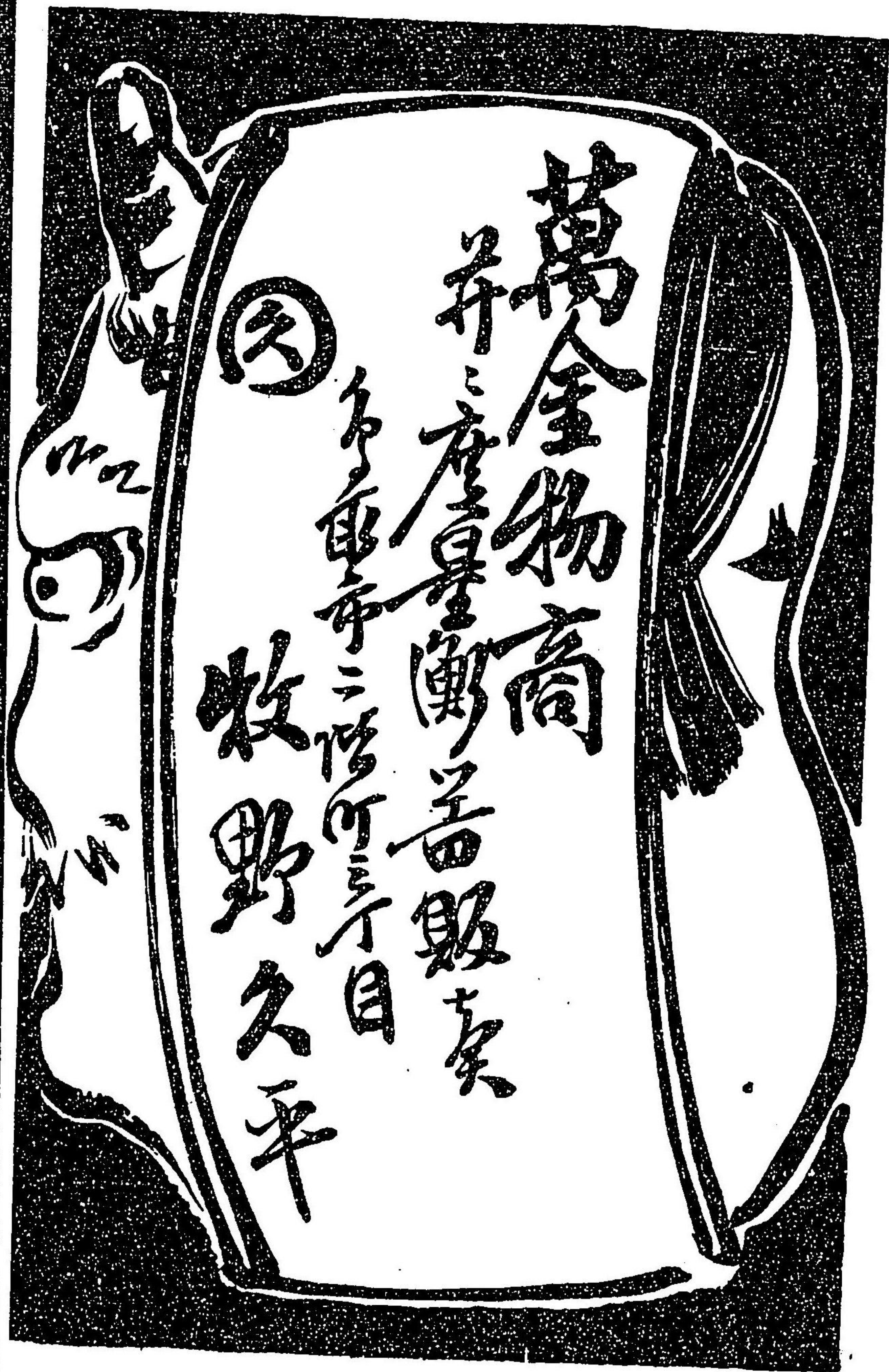
○岩井温泉は世界無比の靈泉にして功能の顯著なる事神の如し
 温泉の發見を貞觀元年より積算すれば本年迄一千四十七年に當れり

即功

倭麻質斯、疝氣
 疝癢の類、胃病
 子宮より起る一
 切の慢性諸症
 是等二三と重かるもの
 とし余は温泉案内記に
 詳かり

○岩井温泉場は鮮魚菜果に富み随つて物價も低廉なり





西町にあり。舊外堀に沿ひ西北に喬木を繞らし東南は西町鹿野町に接す明治三十五年の新築にして市立學校中最新の建築なり。

遷喬尋常小學校

本町一丁目にあり。校舍は明治二十年の建築に係り市中最も繁盛の地にあり。

修立尋常小學校

吉方町にあり。則市の東方に位す。校舍は明治三十二年より三十四年に亘りての新築あり。

私立尚徳館

東町にあり。裁判所と道を隔てて相隣す。

晩成塾

東町二百三十一番地にして漢學に有名なる森本徹一氏に私設に係れり。

鳥取文庫

明治三十六年の創立にして現今鳥取高等小學校内の一區域を構へて假設すと雖も其規模狭小あるを以て目下着々圖書を蒐集し資金を募集して事業を擴張するに努めつゝあり
本文庫は鳥取市教育會の首唱にして地方有力者の贊助する所なり。

幼稚園

幼稚園は二あり。一は鳥取幼稚園と稱し東町大名小路よりて基督教徒の設立せる所。他の一は久松幼稚園と稱し同町知事官邸の前にありて鳥取婦人會の建つる所あり。何れも漸次盛大ならんとする状況にあり。

鳥取孤兒院

縣廳の裏手にあり。本市尾崎信太郎の盡力によりて創設したるものにて現に院兒三十餘名あり。未だ大規模ならざれども漸隆盛ならんとせり。

軍人家族子弟養育所

西町字新藏町にあり。明治三十七八年の役に戦死せし者及び廢兵の家計裕ならざるもの

子弟を收容して之が養育をなす所あり。その學齡兒童をば小學校に學齡未滿のものは幼稚園に通はしむ。

病院

縣立鳥取病院

西町にあり。鳥取市役所の東隣にして病室は一等より四等に分ち其數凡三十六室あり。

伊藤病院

本町一丁目よりあり。伊藤健藏氏の私設にして明治二十四年十一月の開院なり。

鳥取私立蒼恢病院

東町にあり。院長林秀藏氏の設立する所にして三十一年九月より開業せり。

佐々木病院

寺町新橋の堤下よりあり。明治三十年の創立にして外科手術婦人科に屬する遠隔患者の爲

鳥取傳染病院

めに開院せしを始とし今日に至れり。當院は佐々木半市氏の設立あり。
川下町袋川の左岸にあり。鳥取市の公設にして傳染病者三人以上に及ぶ時は直ちに開設する規定あり。尤も其以内なるときは各自の希望に任し病室を貸與せり。

標 谿

名 勝

附鳥取附近の名勝舊跡

鳥取の名勝多からせと雖獨り標谿は幽邃閑雅俗塵を絶ち春の花秋の紅葉に杖を曳くもの多く鳥取に遊ぶ旅客は必ず先づ訪ふべき所あり。地は市の東南上町に屬する一谷よして先づ右方山麓に沿ひて縣社長田神社あり長田水の清泉は翔べば以て夏をも忘れつべし。左方の山下に官祭鳥取招魂社あり莊嚴なる社殿は忠勇報國の烈士の偉勳を仰ぐべく境内

源太夫山の眺望

廣くして樹木泉石頗雅趣に富み亭榭ありて憩ふべし。特に庭上樓の樹數十株ありて花時の壯觀本市第一あり。正面に足を運び大鳥居をえれば縣社標谿神社あり。社域の廣大社殿の壯麗は舊藩鳥取の盛時と國主の勢威を想像するに足れり。雲霧を凌ぎ老樹は後と交へ葉を累ね菊鬱として畫猶暗く斷崖に懸れる小瀑は巖を噴みて玉を轉ずる響あり。溪水緩く流れて清冽氷より冷かなり。地は市街を距ること僅かに數町なれど森林斧斤の入りざるに殆んど三百年鬱咲たる鳥の音混々たる水の響は樹梢の風の聲と相和して千歳の昔を語るもの、如く其の閑靜なること深山幽谷は入れる想あり社殿に關するもの自から懨を正しくし崇敬の念を生ずべし。出で、茶亭を求むれば養氣庵衛生館等あり。即席の茶菓酒肴其の命する所に従ふべき詩歌連俳圍碁象戲亦已の好める所のまゝある。標谿は實に鳥取の勝區中先づ指を屈すべきものにして將來公園の豫定地たり。されば官吏學生は休日の清遊によりて鬱を散ずるもの多く外來の客は一たび來りて旅情を慰むるに足れり。

源太夫山は立川一丁目廣徳寺東方の山脊にありて廣徳寺觀音院等より上ることを得べし。道險をれども町許は過ぎず。山脊稍平坦なる所に老松一株ありケンダイ松と稱す。風景絶佳にして市民の此地に遊宴するもの少からず。松下は憩ひて四方を眺めんか。近くは鳥取市街の所謂若櫻智頭鹿野三街道商家の軒を連ぬるあり。久松山下に沿へる一帶所謂惣門内諸官衙學校等の大層高樓の聳ゆるあり。左には立川町を隔てて歩兵第四十聯隊兵營の總平として一廓をなし營舎の宏壯あるあり。茫茫たる練兵場數千の鎧鎧劍影靴響と相和するあり。遠くは蜿蜒たる千山萬峰東南は聳え其西麓は鏡をせる湖山池の烟霧に隱見するあり。是より漸く北して湖山賀露の海濱白沙青松と相映じ其極まる所賀露の海門となる。港口船舶の輻湊せるあり。洋々たる日本海上白帆漁舟の波上に出没するあり。と收めて源太夫山脊一望の間にある。因幡志に「ケンダイ松は觀音院東の山の脊にありてさせる名株にて云ふにあらす。四方を見晴らし風景の地なれば春の朝より夕迄諸人此處に遊宴を爲す。又近郷の人此松を自當として方角をさす。さるに因て名をさせり云々」あり。ケンダイ松の由来は古記にケンダイは源太夫の訛譯にて天和前後の比白井源太夫

と云ふ武士尺八の上手よて毎夜此松下に来て尺八を吹きければ其れより此名を得たるよしあり。

如意山八勝

湯所町最勝院の境内にありて古松鬱然湖山蒼翠の久松山を後にし森嚴の湯所神社宏壯の天徳寺を前にす。境内又頗る變化起伏に喜み風趣翔すべし。八勝は舊藩士正増適處翁の撰する所題して半日亭八勝と云ふ即ち孤杉落月、荒祠夜雨、後莊新樹、霞湖遠帆、内田晚鐘、大山遙白、古巖老松、淺池遊魚是なり。中には古巖の老松は弘法大師手植の松をり俗傳し高さ丈餘に過ぎずして左右は枝を垂るること十間ばかり根柢枯れも彫刻の露れるに似たり。傍らに碑あり。碑文亦適處翁正増燕氏の撰する所其文左の如し。

臥雲松ノ碑

寺稱養壽院。在入松城之近北。舊號如意山久松寺。相傳。天長九年弘法大師創此寺。爾後經七百四十餘年。天正中豐太閤之征。此土也。城陷。寺亦爲鳥有。及吾藩封興禪公就一國。繼絶興廢。百度惟新。寺遂復舊觀。庭中有古松。生巖石上。

亦傳大師所手栽也。蟠根屈曲。而樹不甚高。枝皆下垂。其最大且長者。蟠蜒數丈。斜亘池水。猶龍臥於碧雲也。實千年外物。賴免當時兵燹。至今貞堅繁茂。鬱々晚翠不改其色矣。古者秦皇封泰山。松爲五太夫。其人既亡。樹亦失傳紀。然則松之壽非レ久。而人令之壽且久也。今此松受吾繼興之恩。長浴國家雨露之澤。何啻周代甘棠之遺愛而已乎。後是幾百年。城之與寺。不塞不崩。以比榮於此松。則久松之名。終不虛也。寺係於余家香華院。歲時展墓。必憩其下。風际吟嘯。撫之盤桓不能去。現住宥正法印。將立石其傍。以標之。乞其名與記。余不敢辭。乃名以臥龍。且書之以使後人知勿剪伐之意云爾。

惜哉明治二十六年老松枯死して今は幼松其後と製へども未だ蟠蜒龍臥の姿なく礪石獨り依然として舊觀を改めず悄然其老松と運命を俱にせざりしを恨めるが如し。碑石にして若し靈あれば幼松の成長を速からしめよ。芭蕉の笠塚は芭蕉翁の笠を忘れたる所なりと俗傳しばせを翁笠塚と刻す。泉池の傍らにあり。

伊吹植物園



軍需諸品一切販賣

鳥取市立川町一丁目二十一番地

陸軍用達 猪口商店

陸地測量部御出版地圖發賣所

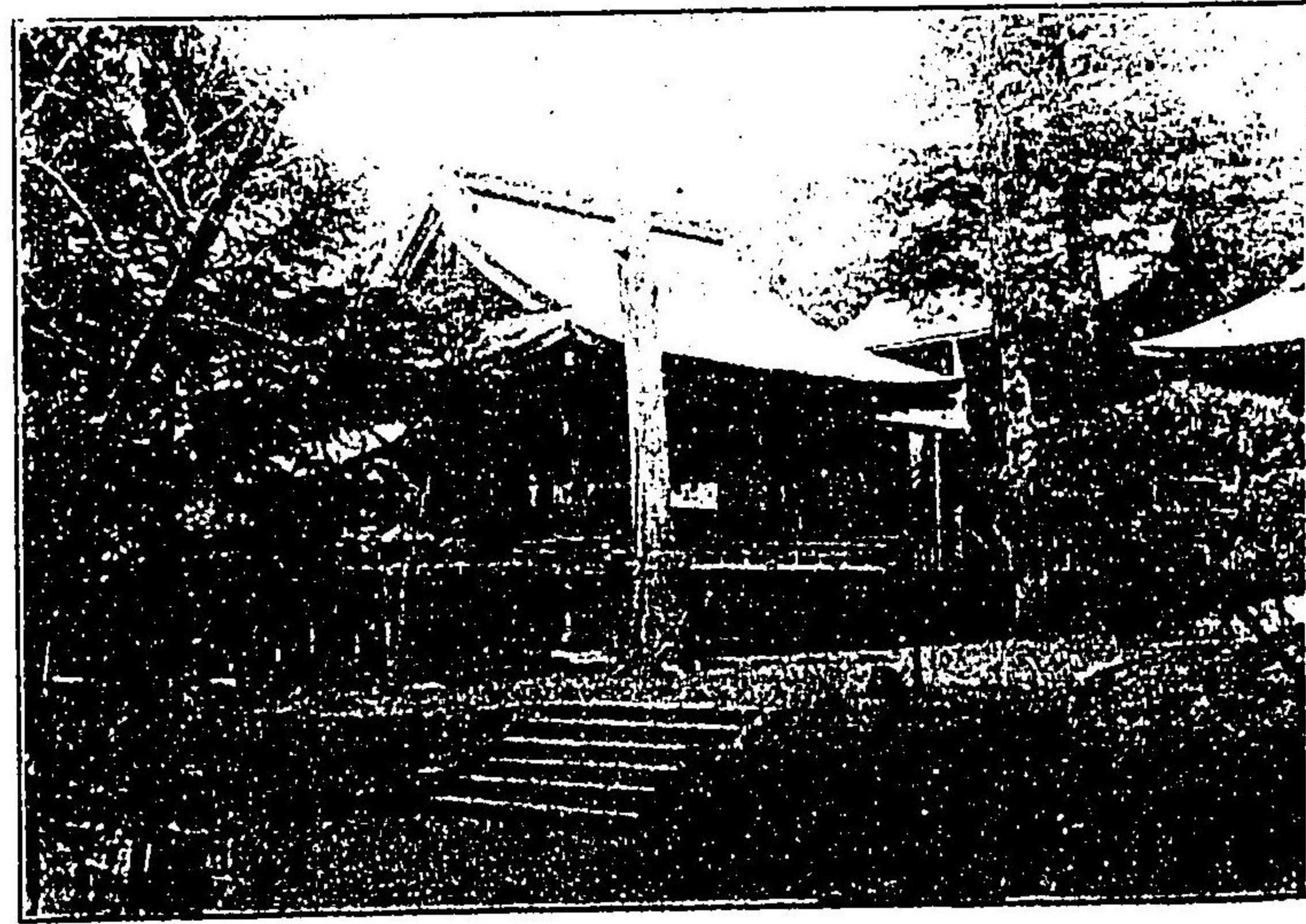
東京市京橋區山下町 宇津木信夫代理店

陸地測量部御認可済 猪口繁太郎





鳥取城跡



宇部神社

袋物

系物

東京小間物卸小賣

名取市智恵島道

花田心札店

市嫁の髪に毛より

仕立道具

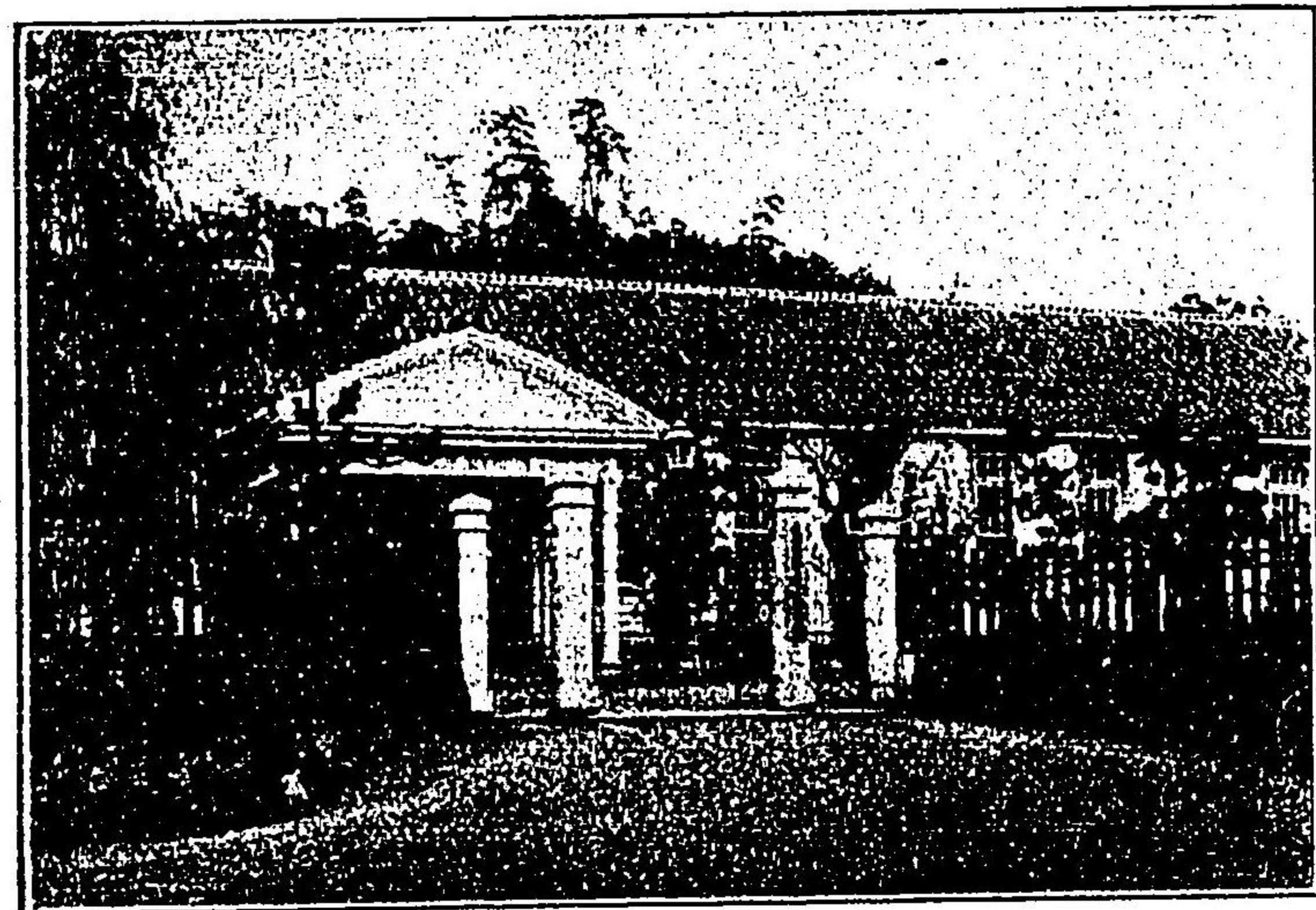
金銀装品

珊瑚玉

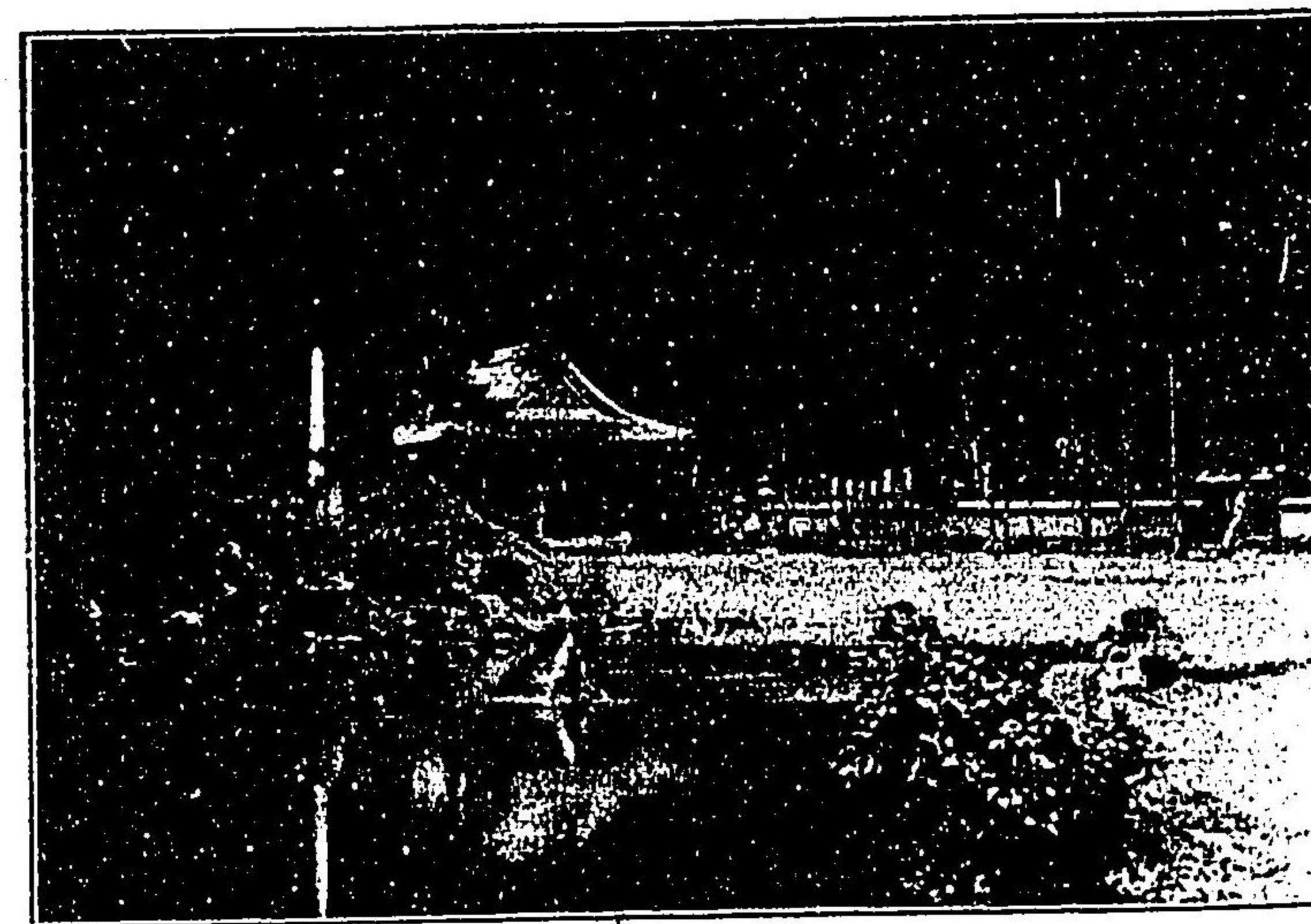
白珊瑚玉細工装造元

送用品

送用品



鳥取縣立高等女學校



鳥取招魂社

合資
會社

鳥取銀行

鳥取市元鑄物師町

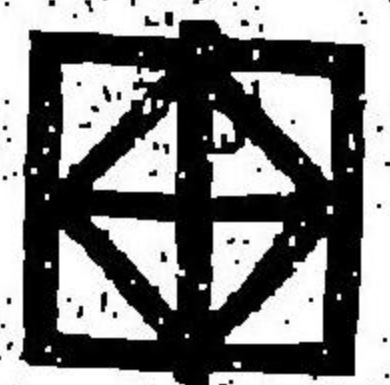
◎ 狀袋製造販賣

本業、日露開戦ノ當時出征軍人遺族
生業扶助ノ目的ニ出テ起業シテ戰捷紀
念トシテ權續セリ其紙質ハ有名ナル因
幡紙ニシテ他國品ノ如ク徒ラニ外觀上ノ
美ノミナ主トスル脆弱ナルモノニアラス又
戰捷紀念渡込入卷紙等取揃アリ進物
品トシテ至極高尚ナリ

◎ 鳥取風景繪葉書發行

本品中ニハ鳥取市全景連續二枚壹組
賀露港及湖山池等ノ絶景組物アリ就中
鳥取市全景ノ如キハ各旅館ヨリ華客
ニ進物用トシテ好適品ノ高評ヲ蒙ル
其ノ他嶽新ノモノ數多發行當地ニ足
ヲ入レララル、ノ諸士ハ鳥取みやけ
トシテ是非御買求ノ要アリ
軍人諸君ニ限リ割引シテ制限ヲ設ク

狀袋、繪葉書、紙類販賣 一二 省 堂
繪葉書發行所



於萬名
米國譽
國大金
聖博牌
路覽受
易會領

吳服御詔染

鳥取市若櫻街道筋
川端壹丁目

中濱敬助染工場

鳥取市吉方町

酒類
醬油
製造業
生酢

松下本店

鳥取市敷片原町

松下支店

鳥取市元魚町二丁目

麻苧網 今網谷商店

麻苧網
緜綿糸

大阪每日新聞

萬朝報
鳥取縣下元賣捌所

其他各國新聞販賣

鳥取市御弓町

谷口新聞社

國產紙類卸商

鳥取市鹿の街道

小田商店

各種肥料商

鳥取市鹿の街道

因幡肥料合資會社

金剛元結製造元

鳥取市立川町壹丁目

津田商店

株式會社 鳥取縣農工銀行

鳥取市川端三丁目五十六番地

銀行一般の業務御便利に取扱申候



株式會社 第三銀行鳥取支店

本店 東京 支店 大坂 横濱 函館 松江 米子 境 倉吉 今市 西郷

御用達

陸軍



店約特取鳥店商口坂社會名台

角町本筋道街頭智市取鳥

店商藏勝田豊

(211) 號電略



版印木彫刻處

池成謙昇堂

鳥坂市本町三丁目

寫
アリスト
白金タイプ
各種撮影
引伸シ

鳥坂市本町三丁目

頭町二大市取鳥
鏡眞寫縣山

被服裁縫及屬品

陸軍御用達

舶來雜貨

山崎喜久藏

色油類及燈油

鳥取市立川町三丁目
五拾貳番地

糀味噌漬物商

卸小賣

并ニ精撰種糀御注文味噌製造所



鳥取市内市場
幾代清平商店

藥師町にありの新築物師町劇場の前より東北約二丁ありの本市伊吹莊藏屋の私園にして面積七千餘坪を有し内外各種の植物を蒐集し殊に林木果樹の苗觀賞植物庭園用樹木若しくは學校園の標本樹木等を培養し世の需用に應せり。園は元舊大夫池田氏の別邸にして眺望絶佳泉水築山の趣あり加ふる四季の花并草木妍を競ひ美を裝ふ。又翠嵐樓、白雲亭、勝萊庵等の亭榭あり遊覽者休憩の所とせり。

ひとみなの心つくしのこの園に

萩原汎愛

ねひし草木の色榮ゆつゝ

草に木にあらんかぎりの種まきて

武井守正

園を富さんもごはこのその

吉方温泉場

本市の西南端停車場に近き所吉方村に忽然として一樂園を現出せり。是を吉方温泉場とす。其の起源は明治卅七年十一月の頃同地池内源六といへるもの飲料水を得んとて東雲延造をして邸内に掘抜井戸を鑿たしめしに圖らずも温泉湧出せしむあり。池内より大

敬服我皇文皇

陸軍御用達

加

山崎吉久藏

色

武井守正

吉方温泉場
本市伊吹莊藏氏の私設にして
面積七千餘坪を有し内外各種の植物を蒐集し殊に林木果樹の苗觀賞植物庭園用樹木若
しくは學校園の標本樹木等を培養し世の需用に應せり。園は元舊大夫池田氏の別邸にし
て眺望絶佳泉水築山の趣あり加ふるよ四季の花卉草木妍を競ひ美を裝ふ。又翠嵐樓、白雲
亭、勝萊庵等の亭榭あり遊覽者休憩の所とあせり。

薬師町にあり。新錫物師町割場の前より東北約二丁あり。本市伊吹莊藏氏の私設にして
面積七千餘坪を有し内外各種の植物を蒐集し殊に林木果樹の苗觀賞植物庭園用樹木若
しくは學校園の標本樹木等を培養し世の需用に應せり。園は元舊大夫池田氏の別邸にし
て眺望絶佳泉水築山の趣あり加ふるよ四季の花卉草木妍を競ひ美を裝ふ。又翠嵐樓、白雲
亭、勝萊庵等の亭榭あり遊覽者休憩の所とあせり。

萩原汎愛

ひとみな的心つくしのこの園に
ねひし草木の色榮ゆつゝ

草に木にあらんかぎりの種まきて

武井守正

園を富さんもとはこのその

吉方温泉場

本市の西南端停車場に近き所吉方村に忽然として一樂園を現出せり。是を吉方温泉場と
す。其の起源は明治卅七年十一月の頃同地池田源六といへるもの飲料水を得んとて東雲
延造をして邸内掘抜井戸を鑿たしめしに圖らずも温泉湧出せしふあり。池内より大

阪ある衛生試験所に託して分析を求めしに療病の効あるを認めしかば大に喜びて浴場を新築し高砂温泉と稱し尋で旅舎を開く。近傍亦之に倣ひて深井を穿つに皆温水を得しかば争ひて浴場を新築し旅館を設け茶店料亭亦陸續として開かる。是に於て荒涼たりし市端の街道に沿へる田圃は變じて一大股賑の區となり鳥取の一繁華を添ふるとなれり。その既成の浴場を擧ぐれば高砂、常盤、朝日、櫻、吾妻、金加、妻鹿野、鳥取の八にして今猶新築中のものあり。この中最も規模宏大にして設備完全せるものは鳥取温泉とす。脚を春山秋郊に縦にして歸るには日猶高き時就きて入浴し庭園を徘徊して小亭に茶菓を喫せば消快妙味實にいふべからず。若しそれ酒肴を命せんか和洋の料理其の欲する所に従ふべく絃歌亦禁する所よあらざるべし。吉方温泉場今日の盛況既にかくの如し。鐵道開通の際外來の客を迎ふるに至らば其の繁華を加ふべきこと想像の外からん。泉質鹽類泉にして或は無色透明なるあり。或は白濁を帶ぶるあり。温度は泉口によりて小異あれども概して華氏の百度より百二三十度の間にあり。主治効能は慢性粘膜炎加答兒(婦人生殖器病)癩癧、皮膚疹、使麻質斯及呼吸器病等に宜しければ遠近の患者湯治をなすも

の多し。

濱坂遊覽

漠々たる白砂點々たる青松漫々たる蒼海綿々たる千代の清流皆是れ濱坂海濱大砂漠の光景あり。實に三萬有餘鳥取市民の一大極樂園あり。貴賤老幼男女の一大運動場なり。鳥取停車場より約一里にして達すべし。壯者は以て其健足をためすべく然らざるゝ車に乗るも可あり。舟に乗る亦大に快あり。何れも其費す所僅よして其樂む所や限りなからん。波上乃白帆清流の扁舟砂濱の青松等其景其趣禿筆のよく盡す所にあらざれば之を遊覽者の所觀に譲り是れより其沿道に於ける舊跡の一端紹介し以て遊覽者の便に供せんとす。市内諸所より道を袋川沿岸の堤上にのぼるものと雁金山に沿へる湯所町に取るものと相會するは御乗場なり。往時太守公御乗船の場所なればしか稱ふと云ふ。御乗場より湯所村に入り山麓に沿ひて三軒茶屋丸山を経て行くこと數丁にして前方の圓き孤山を丸山を呼ぶ。此處に來れば眼界俄かに廣まり心神の爽快云々ん方あり。東に覺寺の田畑西に大星たれば小松原あり。北は既に砂漠の一面を望み心思は早く白砂青松に彷徨して足の

漸く重からんとするを忘る。山下をめぐれば袋川此處に流れ河童地藏道の東側にあり。後方青木の生せる所は奈佐日本之助(丸山城に述べ)の屍を埋めし場處ありと傳ふ。是より愈々進みて眼界愈々廣く千代の清流大山の秀峰を眺めつゝ足の運びも知らぬ間にいつしか濱坂村に達すべし。砂漠中の名地を略記すれば、摺鉢は濱坂村の正北半町許りにして砂漠の凹入恰かも大摺鉢の如き形状をさせる處を云ふ。砂上の上下奔逸最も愉快なり。十六本松は西方賀露川沿岸にありて老松鬱々森をかし西に賀露港北に日本海を望み遊宴運動等に好し。海岸東西二里に亘れる砂濱大波小波と争ひつつ貝殻を拾ひ或は砂を別けて防風を取る等は兒女子の大に喜ぶ所なり。多年が池は東方砂漠の盡くる所松樹の中よりありて池水清く眺望佳あり。柳茶屋は多年が池と濱坂村との中間にあり。此處よて小憩し鮮魚の美味を賞する者多し。

丸山城趾

城中井泉を以て一に無井津城と云ふ。天正中吉川經家鳥取籠城の時此丸山は袋川の咽喉に在りて兵糧運送の要地なれば城中より奈佐日本之助(但馬國の住人)とて剛勇に名

を得し大將に士卒二百騎ばかり差添へて楯籠らせたり。さて雁金山の城より連々尾通りに人數を置きて絆ぎたりと見え其趾今に遺れり。さる程に秀吉公着陣して城の跡を看るに本城より雁金山の砦を経て丸山城まで通路自由なれば先づこれを斷絶するに如かずとて最初に稠しく城を攻められけるとき宮部善祥坊は本城と雁金山の間なる道祖神に乗り上げ遂に城兵を追ひ落し要害を堅固に取立てければ雁金山の驍治周防は本城の通路を絶ち断られ今は城にたまり難くして丸山の城へ逃げ籠りけり。其後鳥取落城しければ丸山城の兩將へも秀吉公の下知ありて切腹せしとなり。

山頂の眺望 舊記に曰く寶曆中奥州の修行者回國して來りて曰く當國の千本松と曰へる名所は海と湖と長流と此の三つを一景の中に備へて見る勝地あり。諸國絶景多しと云へども此くの如き三景全備の所なし。我生國に松島あり扶桑第一の勝景をれども今云ふ如きの天工ならず。願くは一見して歸國の物語にせんと近邊を盡して問ひ尋ぬれども鶴髮の翁も更に之を知る者あかりしが安永の比に至りて何人の云ひけるにや千本松と號するは丸山の事なり。昔奥州の秀衡當國摩尼寺に祈願の故に依て松島の松を數多此の山よ

漸く重からんとするを忘る。山下をめぐれば袋川此處に流れ河童地藏道の東側にあり。後方青木の生せる所は奈佐日本之助(丸山城に述べ)の屍を埋めし場處ありと傳ふ。是より愈々進みて眼界愈々廣く千代の清流大山の秀峰を眺めつゝ足の運びも知らぬ間にいつしか濱坂村に達すべし。砂漠中の名地を略記すれば、摺鉢は濱坂村の正北半町許りにして砂漠の凹入恰かも大摺鉢の如き形状をなせる處を云ふ。砂上の上下奔逸最も愉快なり。十六本松は西方賀露川沿岸にありて老松鬱々森をなし西に賀露港北に日本海を望み遊宴運動等に好し。海岸東西二里に亘れる砂濱大波小波と争ひつゝ貝殻を拾ひ或は砂を別けて防風を取る等は兒女子の大に喜ぶ所なり。多年が池は東方砂漠の盡くる所松樹の中よりありて池水清く眺望佳あり。柳茶屋は多年が池と濱坂村との中間にあり。此處にて小憩し鮮魚の美味を賞する者多し。

丸山城趾

城中井泉を以て一に無井津城と云ふ。天正中吉川經家鳥取籠城の時此丸山は袋川の咽喉に在りて兵糧運送の要地なれば城中より奈佐日本之助(但馬國の住人)とて剛勇に名

を得し大將に士卒二百騎ばかり差添へて楯籠らせたり。さて雁金山の城より連々尾通りに人數を置きて糾きたりさど見えて其趾今に遺れり。さる程に秀吉公着陣して城の跡を看るに本城より雁金山の砦を経て丸山城まで通路自由なれば先づこれを斷絶するに如かずとて最初に稠しく城を攻められけるとさ宮部善祥坊は本城と雁金山の間なる道祖神以に乗り上げ遂に城兵を追ひ落し要害を堅固に取立てければ雁金山の鹽治周訪は本城の通路を絶ち斷られ今は城にたまり難くして丸山の城へ逃げ籠りけり。其後鳥取落城しければ丸山城の兩將へも秀吉公の下知ありて切腹せしとなり。

山頂の眺望 舊記に曰く寶曆中奥州の修行者回國して來りて曰く當國の千本松と曰る名所は海と湖と長流と此の三つを一景の中に備へて見る勝地あり。諸國絶景多しと云へども此くの如き三景全備の所なし。我生國に松島あり扶桑第一の勝景なれども今云ふ如きの天工ならず。願くは一見して歸國の物語にせんと近邊を盡して問ひ尋ねれども鶴髮の翁も更に之を知る者かかりしが安永の比に至りて何人の云ひけるにや千本松と號するは丸山の事なり。昔奥州の秀衡當國摩尼寺に祈願の故に依て松島の松を數多此の山よ

植ゑられけり。是れろの名をさすの初也。又此の山絶頂の風色西北は滄海漫々として白浪天を浸し千山萬峯東南に聳えて盤紆と重り麓に小山の湖水を見千代の長流盤石山（八頭郡最勝寺山）の端を過り下りて縣々として帶の如く廣濶眼を奪ふ氣凡と洞庭西湖を耻づべからずと云ひて其れより諸人此の山に遊宴をば爲しける云々。絶頂の城趾今は舊跡の一として存する物なく唯草木の茫々たる中に蟲吟と鳥啼くを聞くのみ。加ふるに道嶮岨にて容易に登りがたく夏秋は蝮蛇多きを以て蝮蛇山の名あり。

鳥取名勝四季案内

春は花見よは行徳村の梅園、桃園、上町招魂社、観音院、湯處町愛宕山の櫻、最勝院の椿等を賞すべく。遊歩には濱坂の濱田、覺寺の摩尼參り、布施の山王詣、宮の下の一の宮參り等亦良し。夏は伊吹植物園の芍薬牡丹菖蒲、智頭街道の一六夜市、智頭橋敷片原堤の納涼袋川千代川賀露川の舟遊等入の興あり。秋は招魂社、禰野神社境内の散策、智頭橋樺鼻の觀月、古海河原、安長河原、田島河原、小松原の遊歩、久松山水道谷の紅葉等名あり。風流家遊覽に忙はしかるべし。冬は久松山の曉雪、遠山の遙白佳あり。是れ本市附近の風光あり。

り。

賀露港

千代川の河口にある港にして鳥取を距ること一里餘本國の名港なり。近年其の河口に數町の防波堤を築き對岸に數條の突堤を築きて水勢を強からしめしより港口月を逐ひて其の深さを増し船舶の出入稍便利となるに至れり。此地東には十六本松東濱等の勝地あり。西には縣社賀露神社あり。風景快豁最も遊觀に適せり。若しうれ袋川より棹して半日の清遊を試みれば其快適言ふべからざるものあらん。鳥取市民の一大遊樂地として出遊するもの固より其の所なるべし。

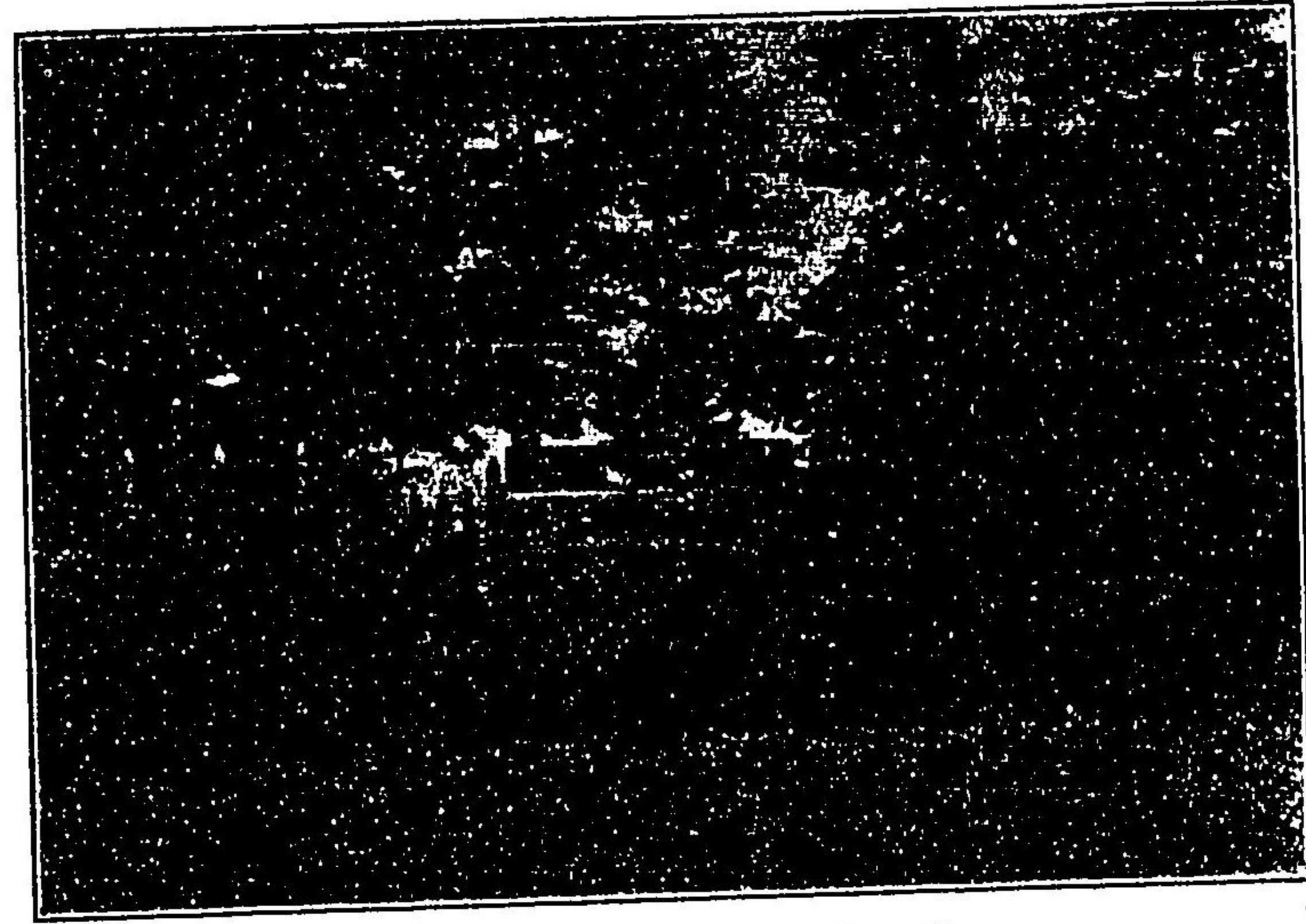
吉川經家の墓

岩美郡中郷村大字圓護寺にあり。村を距ること二町餘久松山の背後に當りて字與五反田と稱する處の田畔方三間余の丘上に二ヶの五輪を安置す。是れ吉川經家の墓なりといへり。經家は天正九年豊臣秀吉公當國來伐の時毛利氏の指揮によりて鳥取城を守りしが

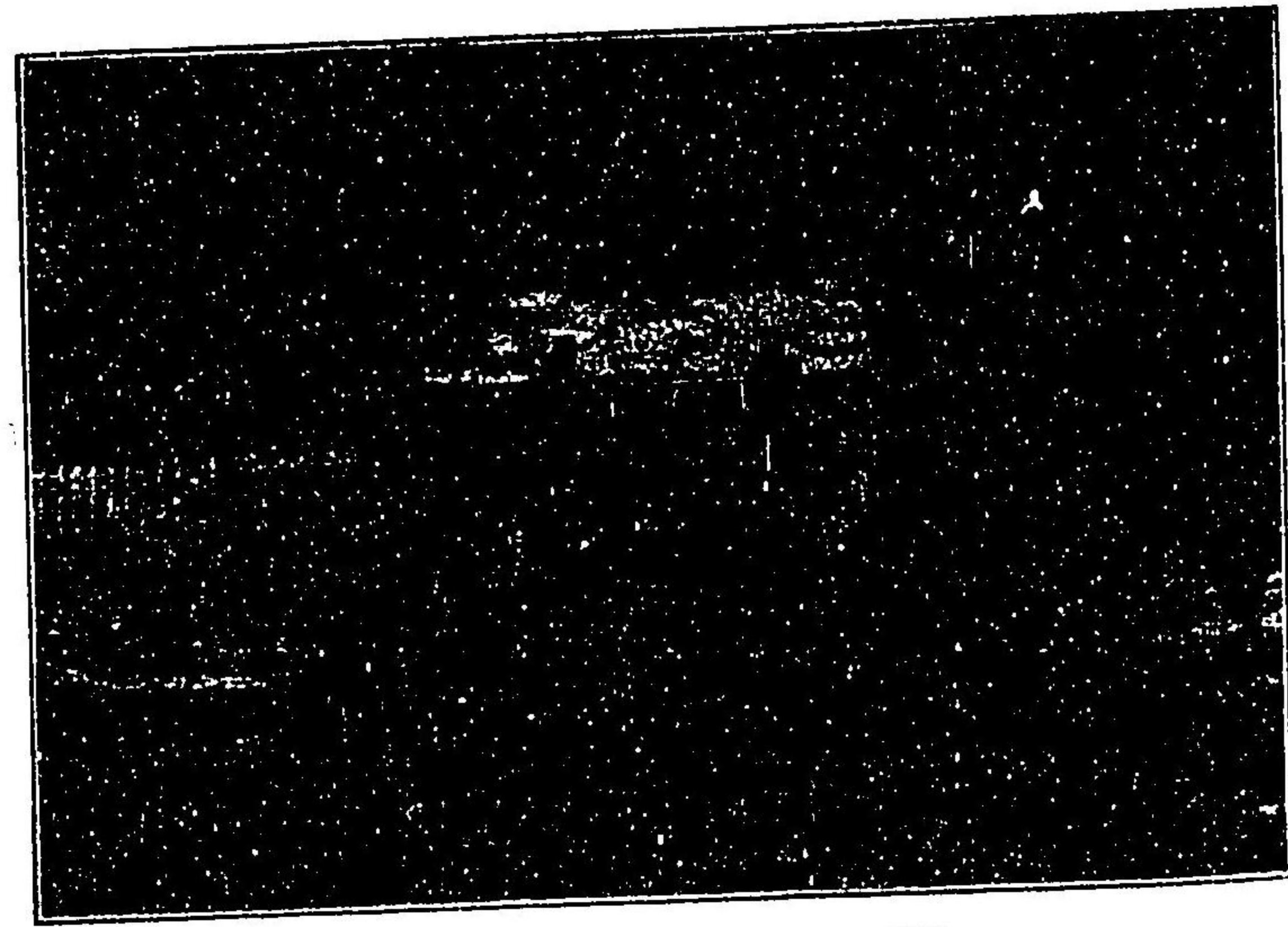
七月より九月に亘りて圍解けず。城中糧食盡き亦戦ふこと能はず。經家遂に自殺して城を開き其の兵を免せり。秀吉公之を義とせられき。地僻にして風光の觀るべきもれなしと雖も殉難勇將の英魂を慰めんが爲に遠近の志士學生等の來り甲ふもの多し。

安徳天皇御陵墓參考地

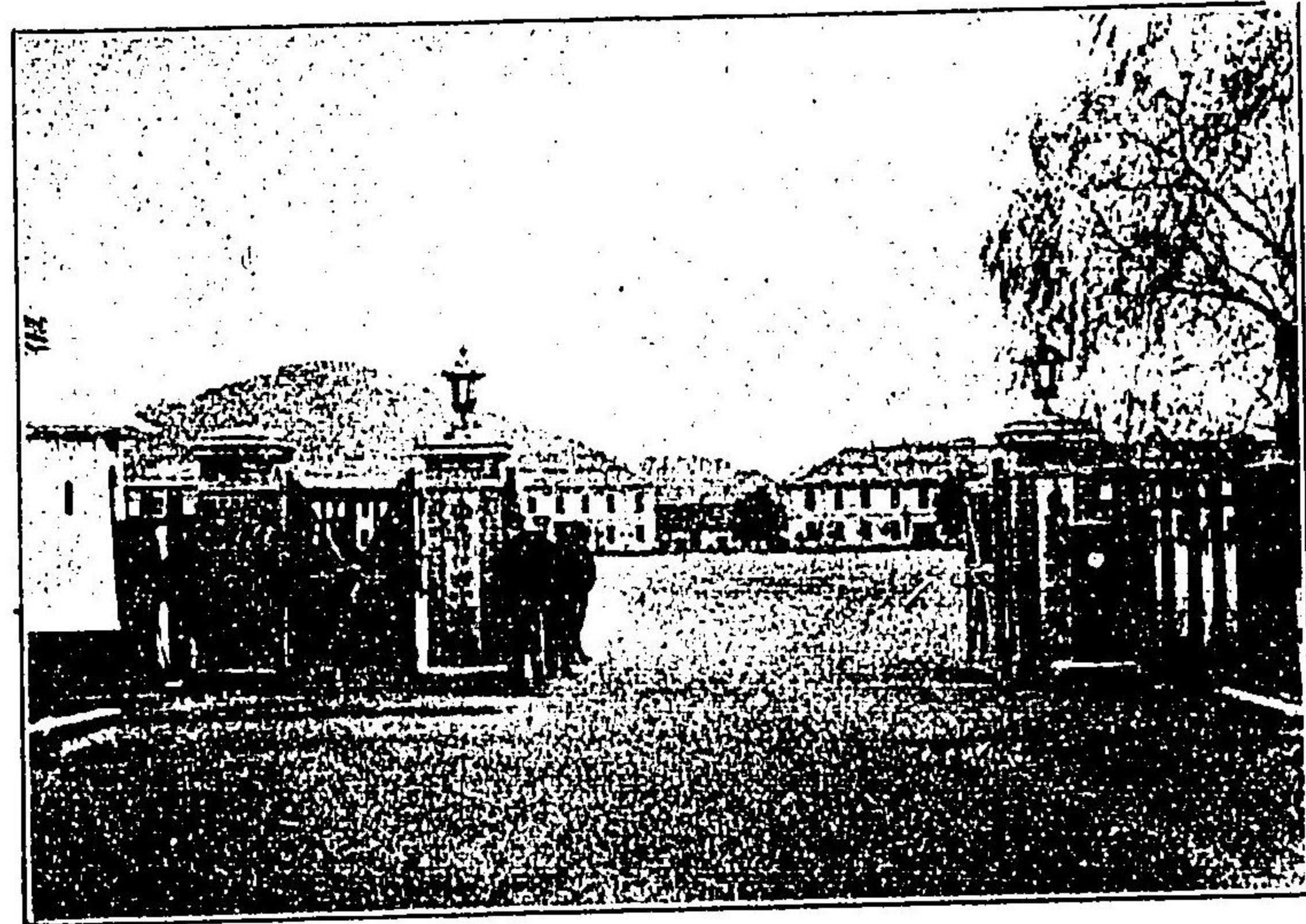
鳥取市を出で雨漣街道を岩美郡に入りて歩兵第四十聯隊の營所を訪ひ奥谷ある池田家累世の墳墓を拜し宮下村ある一の宮宇倍神社に詣で、猶進むこと約一里にして御陵村大字岡益村に達す。丘上に一大石塔あり。其の規模宏大あること罕に見る所。蓋し尋常の墳墓にあらす。古來口碑に傳へて安徳帝の御陵とせしが幾多の星霜を経て墓石散亂墳廢の姿とされり。其の地長通寺の住職牛尾得明師深く之を慨き地方の志士は謀りて畫策する所あり。崇陵會を設けて其の由來を糺し上京して其の筋を稟白す。宮内省官吏を派して取調べ遂に明治二十八年御陵墓參考地と定められ尋いで草萊を開き墳墓を修理せらる。地方の有志亦協力して之が經營に従事し漸に神園を設けて尊崇の志を致し稱して聿來園といふ。是に於て御陵墓の莊嚴昔日より倍し四邊の風色舊態を改む。安徳帝御陵



安徳天皇御陵



栲谷神社



步 兵 第 十 四 聯 隊 營 營



吉 方 温 泉 場

鳥取縣國定教科書特約販賣所

鳥取市本町三丁目拾番地

山本鐵五郎

當會社ハ鳥取市本町三丁目山本鐵五郎氏ニ鳥取代理店ヲ囑托シ

保險申込ハ勿論被保險人諸氏ニ對スル凡百ノ事務ハ同氏ニ於テ懇篤可憐ニ之カ取扱ナ

國民生命保險株式會社

本社 廣島市尾道町

社長 賴 鷹二郎

顧問 關 新吾

當時特派員滯島中ニ付此際御申込ノ諸氏ニ對シテハ至極便利ノ取扱ヲナスノミナラス
契約ノ締結亦迅速ナリ

共
陸送貨物運送
海陸貨物運送
換為寄

鳥取市元魚町壹丁目

鳥取運送合名會社

大坂市東區橫堀三丁目
關口旅館方

出張所陸送部

大坂市西區飯南通一丁目
泉甚旅館方

出張所回漕部

山陽線上郡驛前
井上運送店方

出張所

國產
萬漆商
木村漆行

兼漆工材料一式

鳥取市若櫻町

鳥取市立川町壹丁目

宮田賢一郎

銘酒
朝綠釀造
牌肝圓販賣



メリヤス
靴製造卸商

鳥取市立川町壹丁目

井上増造商店

諸材木商

樽卸 樽小 類賣

鳥取市東品治菊橋西へ入ル

矢谷米造商店

御旅館 野田長太郎

鳥取市立川町四丁目
大橋北詰

萬履物商

鳥取市智頭街道筋
火ノ見下

前嶋松壽堂

依料理

鳥取市鹿野町
借老亭

圍碁俱樂部

鳥取市片原二丁目

岡野平次郎

內科
小兒科

鳥取市片原町三十八番屋敷

敬信堂病院

諸材木商

樽卸 樽小 類賣

鳥取市東品治菊橋西へ入ル

矢谷米造商店

御旅館 野田長太郎

鳥取市立川町四丁目
大橋北詰

萬履物商

鳥取市智頭街道筋
火ノ見下

前嶋松壽堂

料理

鳥取市鹿野町
借老亭

鳥取市敷片原町三十八番屋敷

内科
小兒科

敬信堂病院

圍碁俱樂部

鳥取市片原二丁目

岡野平次郎

鳥取市立川町三丁目

萬履物商 松の尾商店

鳥取市立川町四丁目

御定宿 丸屋旅館

待遇町噂實直

弊場の位置

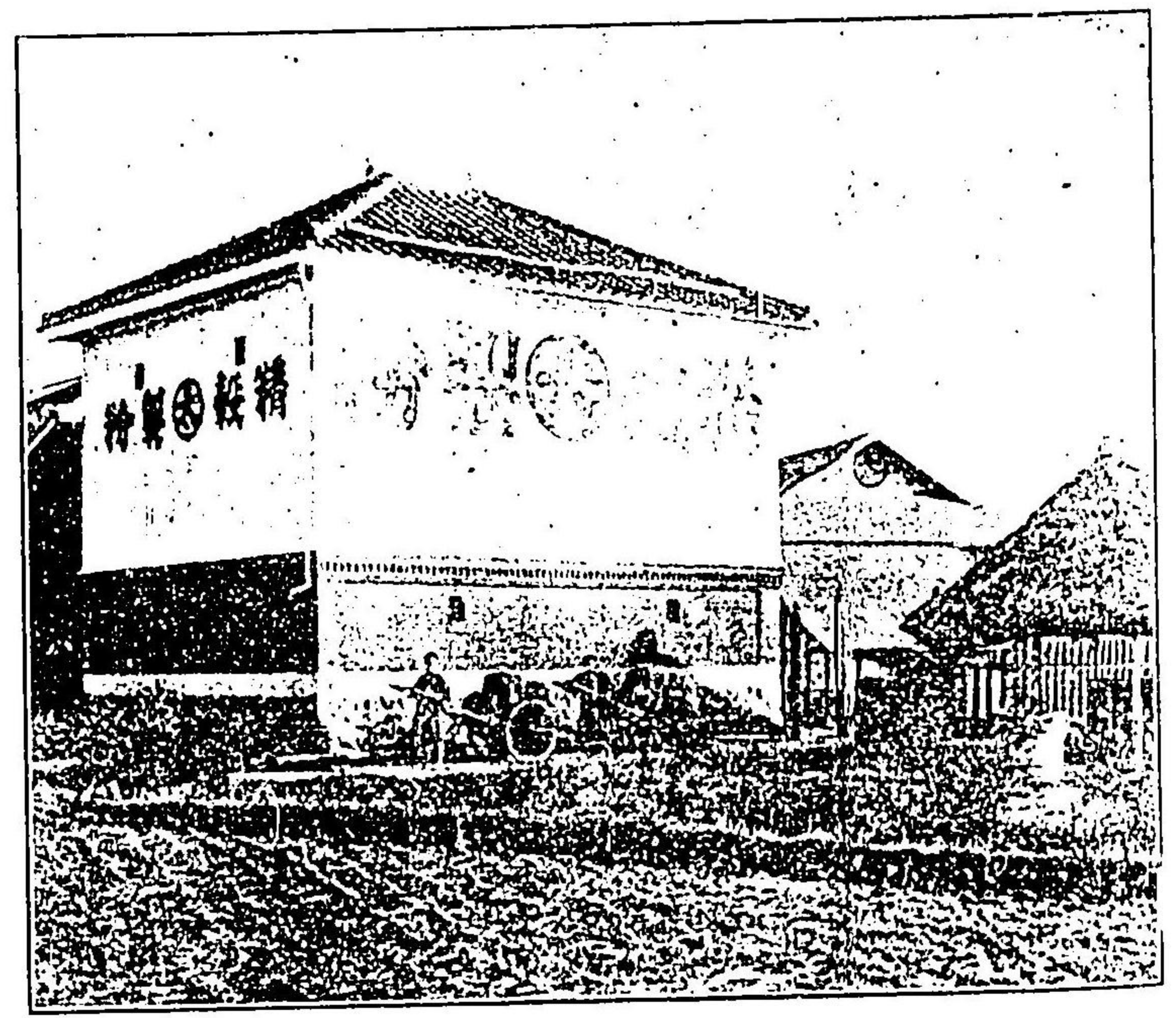
鳥取ステーションヨリ
東北へ二町

營業種目

- 精米 精麥
- 製粉 製麵
- 精製販賣及
- 依託精製仕候

太中精穀製粉場

鳥取市東品治村



弊場の位置

鳥取ステーションより
東北に二町

営業種目

精米 精麥
製粉 製麵
精製販賣及
依託精製仕候

太中精穀製粉場

鳥取市東品治村



掛物類
砂糖
卸小賣

鳥取市若櫻町

田中幸盛堂

藍染物悉皆
絹綿疋御紋附
諸色小紋類
襦袢類洗張
深裏地販賣
鳥取市川端町目
今堤染五店

掛物類

砂糖

卸小賣

鳥取市若櫻町

田中幸盛堂

藍染物悉皆

絹綿布御紋附

諸色小紋類

衣類洗張

襪地販賣

鳥取市川端一丁目

今堤染五店

ついで

學和
校漢
用洋
書書
籍籍

諸
雜
誌
取
次

因幡誌發行所

鳥取市上魚町
書林 山本文林堂

傘提燈製造業

鳥取市大工町頭二十二番地
岩本芳藏

各 國 貨 物 運 送 業

速 為 荷
達 換 取
便 扱

鳥取市智頭街道筋本町三丁目角
山陰運送社

大阪市東區北濱四丁目心齋橋筋東へ入
山陰運送社大坂支店
(電話東參五參壹番)

山陰鐵道西線青谷驛前
山陰運送社青谷支店

山陰運送社ハ内國通運株式會社鳥取取引店本村運送店ト日本運輸株式會社鳥取管理店林運送店トノ共立ニシテ取引店ハ普ク樞要ノ地ヲ網羅シ且ツ全國各鐵道及汽船會社等之運輸機關トノ連續遺憾ナク急送品ハ赤〇便及小包郵便ニ均シキ定期速達便アリ尙清韓各港ヘノ輸送連絡、貨物運送保險、貨物引換証發行等特種之便益ヲ占有シ交通機關ノ經營ト共ニ多大ノ注意ヲ以テ着々其設備ヲ改良シ貨物取扱ノ齊一、運賃ノ低廉ヲ計リ品代金取立或ハ荷爲換ノ取扱ヲ爲シ以テ其産業ヲ翼贊シ世運之進步ニ邁進シテ事ヲ努メ總テ懇切鄭重ニ取扱可申候間多少ニ拘ハラヌ陸續御用命之程希上候

内國通運株式會社鳥取取引店主 本村繁藏
日本運輸株式會社鳥取管理店主 林兼太郎

醬油 釀造 販賣

多年經驗ト學理トニヨル最優等品

北海道ニ於ケル酢ノ聲名ハ天下一

鳥取市新鑄物師町

吉村本店

量器製作 衡器販賣 各種肥料販賣

濠洲天然肥料縣下一手販賣

鳥取市新鑄物師町

吉村支店

墓の地は就いては古來學者間異見多く未だ定説なしといへども當國土民の傳ふる所に
よれば壽永壇浦の役平家滅亡の際に帝は二位尼及び平盛次家長等と難を遁れて海上に漂
ひ終に當國賀露浦に着かせ給ひ岡益村の草庵にしばし潜ませ給ひつぎて八頭郡私都谷の
奥なる瓢箪山といふ所に假の行在所を建て、住はせ給ふ。秋の半侍臣等大茅の山奥眺望
よき所に伴ひて御心を慰め奉りしに主上俄かに御不例とありてやがて崩御し給ひぬ。時
に文治三年八月十三日御年僅かに十歳ありき。即尊骸を此の地に移して葬り奉る。よ
りて豎一丈六尺四間西面の石塔を建立す。是れ今の石堂なりといへり。春秋七百回文書
の徴すべきものなしといへども宏壯なる墳墓と附近の地名とお考ふれば土民の口碑亦捨
つべからざるに似たり。足一たび此の地を踏めば懷舊の情自ら興り俯仰低回去ること
能はず。今毎年九月十三日を以て祭典を行はる。

儼然山上石堂存。孤冢累々護三尊。

誰道皇都在波底。御裳川是御陵村。

重野安釋

精製油 釀造販賣

多年經驗 學理 最優等品

北海道ニ於ケル 釀造ノ聲名ハ天下

青村木店

量器製作 衡器販賣

各種肥料販賣

島取市 青村木店 各種肥料 量器製作 衡器販賣

墓の地は就いては古來學者間異見多く未だ定説なしといへども當國土民の傳ふる所に
よれば壽永壇浦の役平家滅亡の際に帝は二位尼及び平盛次家長等と難を遁れて海上に漂
ひ終に當國賀露浦に着かせ給ひ岡益村の草庵にしばし潜ませ給ひつぎて八頭郡私都谷の
奥なる瓢箪山といふ所に假の行在所を建て住はせ給ふ。秋の半侍臣等大茅の山奥眺望
のよしを所に伴ひて御心を慰め奉りしに主上俄かに御不例とありてやがて崩御し給ひぬ。時
に文治三年八月十三日御年僅かに十歳ありき。即尊骸を此の地に移して葬り奉る。よ
りて豎一丈六尺四間四面の石塔を建立す。是れ今の石堂なりといへり。春秋七百回文書
の徴すべきものなしといへども宏壯なる墳墓と附近の地名とを考ふれば土民の口碑亦捨
つべからざるに似たり。足一たび此の地を踏めば懷舊の情自ら興り俯仰低回去ること
能はず。今毎年九月十三日を以て祭典を行はる。

儼然山上石堂存。孤冢累々護至尊。

誰道皇都在波底。御裳川是御陵村。

新田公家

重野安釋

池田氏墓地

岩美郡國府村大字奥谷にあり。此地に元清源寺と稱する池田氏の香華院ありしが近年清源寺を廢し鳥取市龍峰寺の出張所を設けて墳墓を守らしむ。境内凡二萬坪にして老樹鬱々深林を爲し其の中央に元祿年間より明治初年に至るまで池田氏累世の墓石十數基ありて規模宏壯あり。

神社

鳥取招魂社

鳥取市上町標路の左の山麓にあり。維新の際國難に殉せし舊鳥取藩の志士、戊辰の役、西南戰爭、日清戰役に戦死せし地方の士卒、日露戰役に斃れし歩兵第四十聯隊及び本縣出身海陸軍人等の靈を合祀せり。明治三年舊藩主の創建にしてもと岩美郡中ノ郷村大字濱坂村にありしが明治十二年本市西町標路のある所に遷座し同卅年また現在の位置に遷座せり。

標路神社

明治八年より官祭に列せられ府縣社の上に位して菊御紋章を用ふること制札の書式建設方等總べて官國幣社と同じ。毎年五月五日六日を以て盛大なる招魂祭を執行せられ餘興として角力、煙火、大神樂、劍術、柔術等の奉納ありて境内非常に雜沓せり。社殿には本殿幣殿拜殿ありて崇高森嚴あり。境内二千餘坪あり春秋の景に富み老幼の散歩に適せり。

これも上町標路にある縣社あり。慶安二年舊藩主池田光仲公の創建にして。舊東照權現と稱し徳川家康公を祭りしが明治七年藩祖池田忠繼忠雄及光仲三侯の靈を配祀し。明治十一年更に池田慶徳公の靈をも合祀せり。堂宇極めて莊嚴にして本殿幣殿拜殿神樂殿寶庫神具庫隨神門中門神饌所社務所等あり。境内三千五百餘坪老樹蒼翠清流潺潺鳥聲風語と相和し幽邃閑雅自ら崇敬の念を生ずべし。大祭は五月三十一日六月一日に執行あり。この日市民の參詣するもの頗る多く種々餘興の催ありて股賑なり。舊藩時大祭神事行列の盛儀にして市中の賑ひし事は老人の口に残り。寶物には青蓮院尊純法親王の筆東照權現宮の額面狩野守信の筆鷹の額面狩野探幽の筆三十六歌仙極彩色の額面(歌は尋

純法親王の筆) 宗近作古劔一口舊藩主所藏の甲冑刀劔其他の武具等あり。
長田神社

鳥取市上町にある神社あり。事代主神猿田彦神を祭り相殿には譽田別尊菅原道真公を祭れり。創建年月は詳ならずと雖往古より久松山に鎮座し鳥取鎮守の産土神として舊藩主池田氏世々崇敬厚ありしが慶安三年に至り現今の地に遷座せり。後享保五年の火災に罹りて社殿記録等一切焼失せしが寛永元年池田宗泰公之を再建せりと云ふ。社地は丘陵の麓にあり。古杉老松森々として鬱茂せり。大祭は六月三十日七月一日に執行す。鳥取市一部の産土神あり。

聖神社

鳥取市を距ること數町岩美郡富桑村大字行徳村にある郷社なり。彦火瓊瓊杵尊彦火火出見尊を祭り事代主命を合祀す。創建年月詳ならず。現今の社殿は寶永七年の造営にかかれり。舊社號は聖大明神と稱し安永五年吉田家より神階正一位を授けられたり。社殿は建築莊麗にして境内千四百坪巨樹森然鬱鬱として林をみせり。大祭は五月十日十一

日十二日の三日間之を執行し十一日には神輿渡御あり。當社は市内最繁華ある廿七ヶ町村の氏神あるを以て祭禮頗る賑しく参拜者の群集夥しくして雜沓云はん方よし蓋當時國內第一の大祭典なるべし。

栗溪神社

栗谷町に在る村社なり。須佐之男命を祭る。舊正一位牛頭天王と稱せり。當社は往古鳥取郷内の舊社なりしが享保大火の際本殿及附屬建物悉皆焼亡し棟札古記録等もかく往古の由緒詳ならず。されども元龜の頃既に此地は祭神ありし事は舊記によりて明あり。當社氏子の多き學國中第一あり。(十九ヶ町村) 境内老木森々として鬱茂し幽靜ある靈地あり。

湯所神社

湯所町にある村社あり。須佐之男命櫛名田比賣命を祭る。勸請年月詳ならず。舊社號を荒神宮と云へり。境内靜閑にして庭園佳趣に富めり。大祭は三月廿八日に執行す。湯所町湯所村の産土神あり。

大森神社

川下町にあり。村社あり。大穴牟遲命、少名毘古那命を祭り。事代主命を配祀と。創建年月詳ならず。現在の社殿は正徳元年の建築あり。境内老樹繁茂し、蔚然林をなせり。此地四周水田に圍まれ眺望に富み。夕照の風光は小松原の晴嵐と双美を争へり。大祭は六月九日に執行し、毎年神輿は渡御あり。参拜者頗る多し。

稻荷神社

立川町四丁目の山手にありて北野神社と境を接す。立川町村の産土神なり。此の社は舊藩主天祥院殿江戸築地の屋敷にて誕生せられ、稻荷大明神は其の産土神なりし故を以て入國の後、此の社を尊崇せられ、社地を廣め、神殿をも造營ありて、目出たき社頭とありしと。ことあり。祭日は九月二十三日にして、神輿渡御の次第は甚だ盛なり。

北野神社

立川町にあり。菅原御祖命を祭る。舊天満宮と稱す。當社は昔備中國兒島郡竹島山にありて、池田忠繼公備前公封せられてより、忠雄公に至るまで、格別に信仰せられしを、光仲公當

國に封せられしとき、此地に鎮座せられたり。かゝる由緒あるを以て、世々の藩主尊崇厚かりと云ふ。

愛宕神社

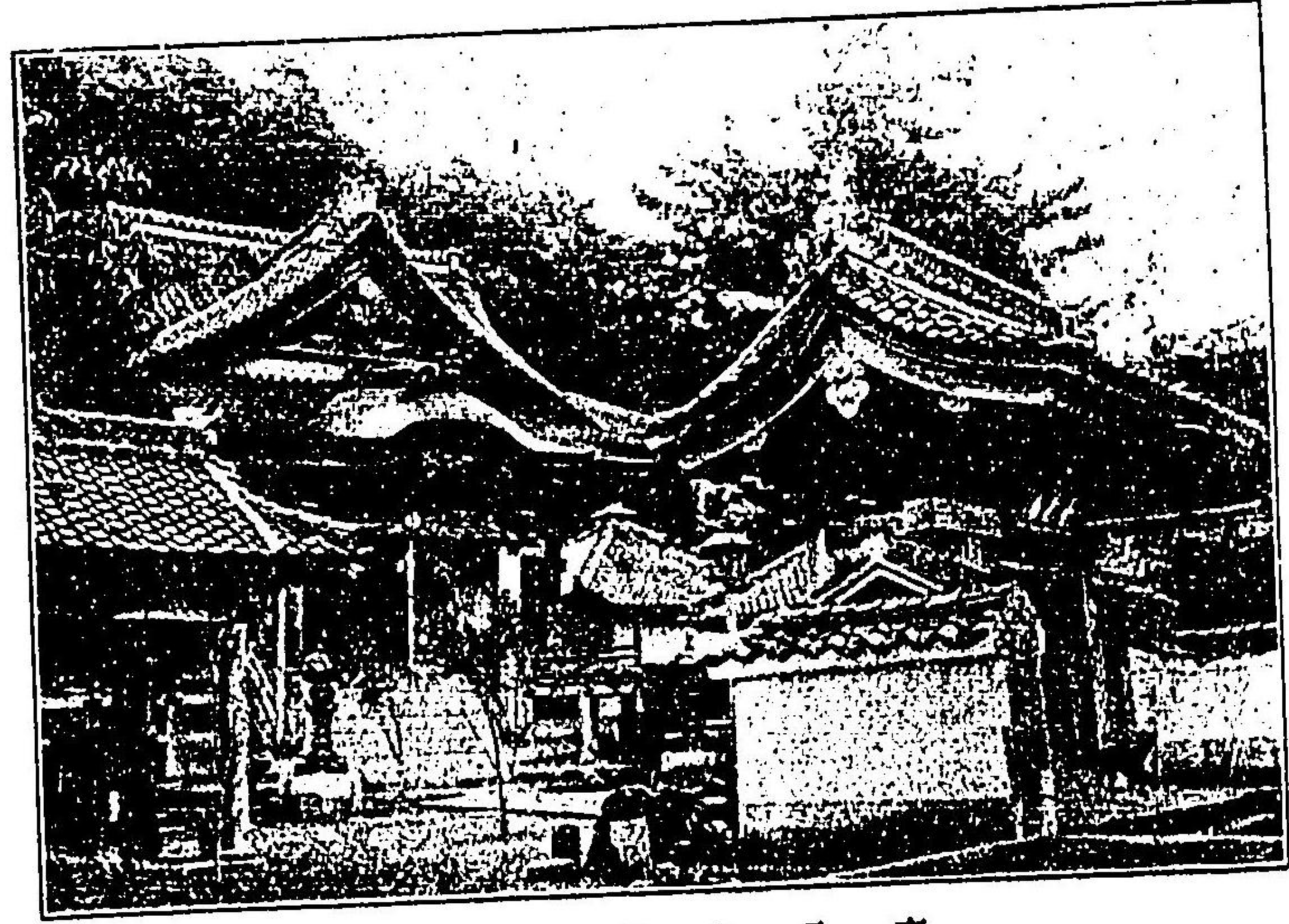
湯所町雁金山の山腹にあり。軻遇突知命を祭る。創建年月詳ならず。舊號愛宕將軍地藏大権現。現今の社宇は萬治二年舊藩主池田氏の再建に係ると云ふ。この地眺望頗る開豁にして、風光の絶佳あること、源太夫山及久松山の絶頂と殆んど異あることなし。祭日は六月及十二月二十四日にして、参詣者頗る多く賑へり。

宇倍神社

岩美郡國府村大字宮下村にあり。國幣中社にして、武内宿禰を祭る。縁起畧に、武内大臣、仁徳天皇五十五年、この國に下向したまひ、龜金の丘に双の履を残り置きて世を去りたまひし靈地なるをもて、孝徳天皇の御宇、大化四年、大臣の靈を祭り、社殿を建て、嘉祥元年より、朝廷にて祭祀を行はせたまふ、御神徳のいちじるさより、屢々神階を進めて正三位を授け奉りたまひし事な、古書に見ゆ、延喜式神名帳より、名神大と記させたまひし

こゝを以て赤の(龜金の丘は本社背後あり)かよる靈地なるを以て古來一ノ宮と稱し
 正國人の尊崇厚く參詣者また頗る多し。社殿は明治三十一年の改築よかり本殿、幣殿、
 拜殿、神饌所、中門、神樂殿、社務所、神輿庫、參籠所、祭器庫、等ありて結構莊嚴なり。境内
 七千六十四坪あり。土地高燥にして清雅。西南遠く田野村落を瞰下し眺望快濶にして四
 時共に風景佳あり。東北は有名なる稻葉山にして和歌の名所あり。寶物には武内宿禰の
 御鏡、(稻葉山)信筆、(稻葉山)稻葉山、(稻葉山)稻葉山、(稻葉山)稻葉山、(稻葉山)稻葉山、(稻葉山)稻葉山、
 其等頗る多し。祭日は四月廿一日あり。

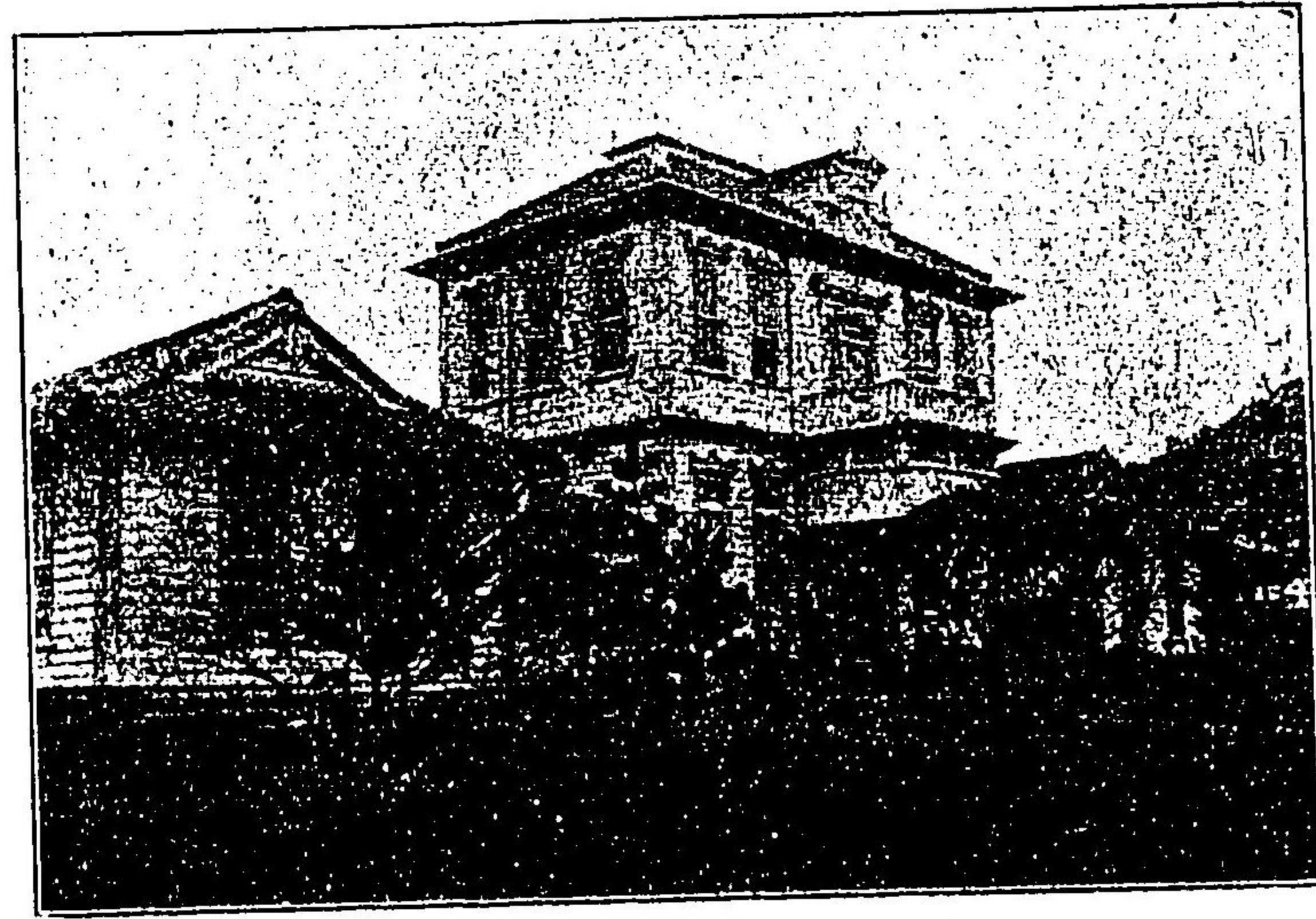
倉田八幡宮
 鳥取市を距る南一里二十五町岩美郡倉田村にあり。郷社にして應神天皇仲哀天皇神功皇
 后を奉祀す。創建年月は詳ならず。口傳の傳ふる所に據れば壽永文治の頃此地に
 勸請して社殿壯麗を極めしが天正年間兵燹に罹り慶長年中池田氏再築せられりと云ふ
 ○華表より随神門に至る空路の左右に松並木あり門をすれば正面に本社幣殿拜殿其右に
 神樂殿あり。又本社に傍銀燈の大樹ありて廻り三丈高さ十三丈之を神木と稱す。境内坪



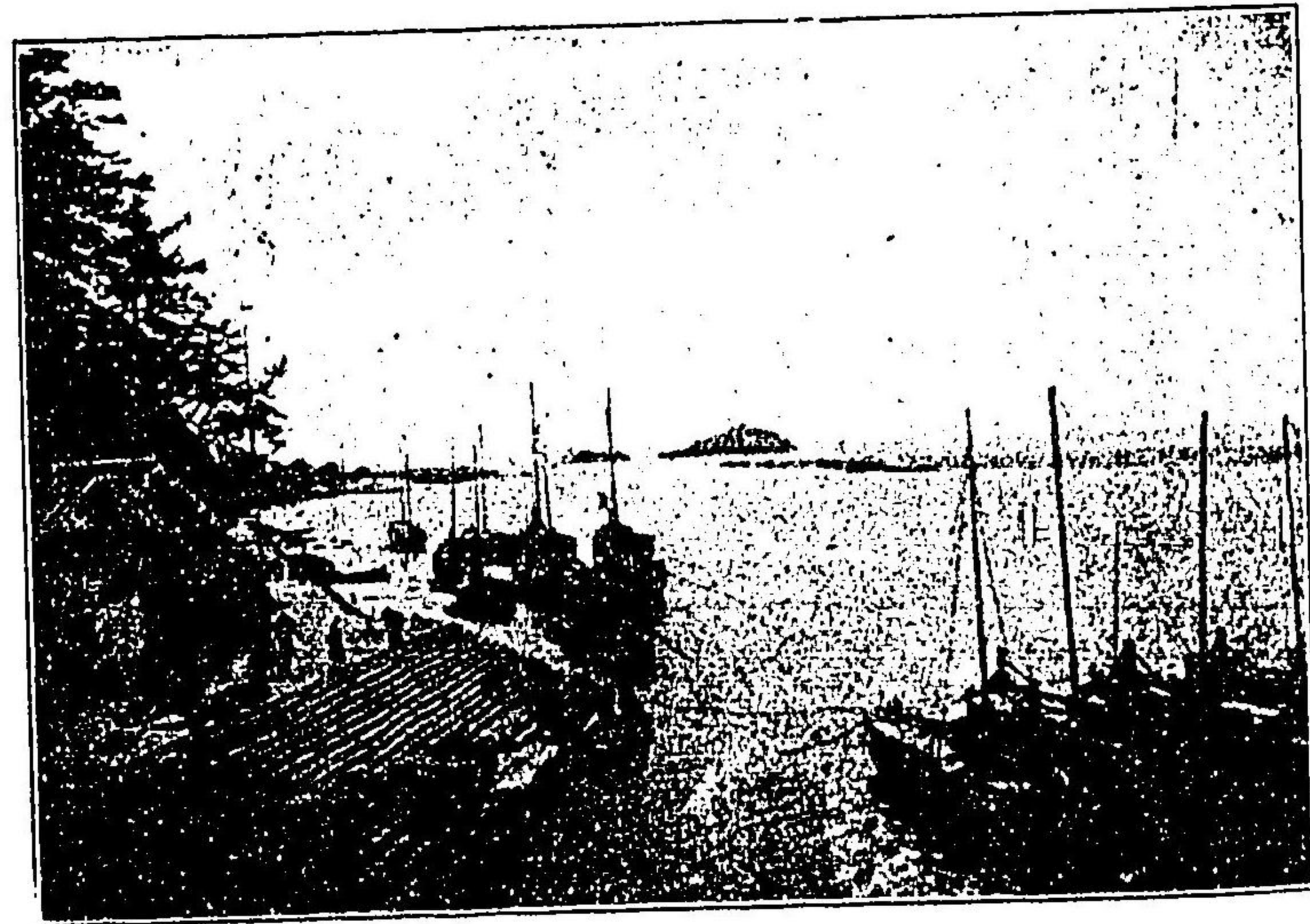
寺 尼 摩 山 見 喜



塚 之 門 衛 右 又 木 荒



島取縣物產陳列場



賀露港

和洋金物卸商

并硝子板販賣

鳥取市智頭街道

丹波屋事

立足
商立
店商

岡田瀛船第壹松山丸元扱

大阪起點各港ヲ
經テ賀露港定期
瀛船元扱

其他内地各港北海道臺灣韓
國各港大連行連絡瀛船取扱
托送貨物取扱ノ丁寧ト敏速
ヲ熱心ニナスハ弊店ノ特色
ナリ

鳥取市茶町

◆ 福田回酒店

スタンダード石油會社特約販賣
神戸直木製燐寸特約販賣
日本第一麥酒株式會社カブトビ
ール特約販賣
米穀精米委託賣買

鳥取市茶町

福 福田勝藏商店

スタンダード石油會社神戸支店
石油特約販賣

合名 坂口商店醸造醬油特約販賣
會社

鳥取市茶町

◎ 初鹿野芳藏商店



家

指物商

鳥取市二階一丁目

山家新次郎商店

並ニ 箆筒長持嫁入り道具

官廳諸學校用具

机腰掛椅子類各種

其他御好ニ應ス

真 寫

開業以來三十餘年、經驗ヲ以テ
優美高尚ニシテ、技術鮮明ナリ

鳥取市西町

喜多村寫真館

和洋
御料理

鹽谷館

鳥取市本町二丁目

御旅館

鳥取市吉方町

いなほや

岩田なを

足袋仕立元

おろし小袋

商 號
鳥取市西町
吉岡屋中山商店

寫 眞

開業以來三十餘年間、經驗ヲ以テ
優美高尚ニシテ、技術鮮明ナリ

鳥取市西町

喜多村寫眞館

和洋御料理

鹽谷館

鳥取市本町二丁目

御旅館

鳥取市吉方町

いなほや
岩田なを

長袋仕立元

おろし小袋

鳥取市西町

高 辨
吉岡屋中山商店

紙

國產紙
輸出商

和藤井安五郎

鳥取市元魚町三丁目

好為生味
油
贈
造
之
今
鳥取市立川町四丁目
楠城屋商店

陸軍御用達

鳥取市立川町四丁目

濱崎商店

運送貨物取扱

共

多摩市川端三丁目

共運送店

電信略号(075)

大坂東区及所五丁目

伊藤運送店方

共運送店出張所

電話東一四八四番

西洋

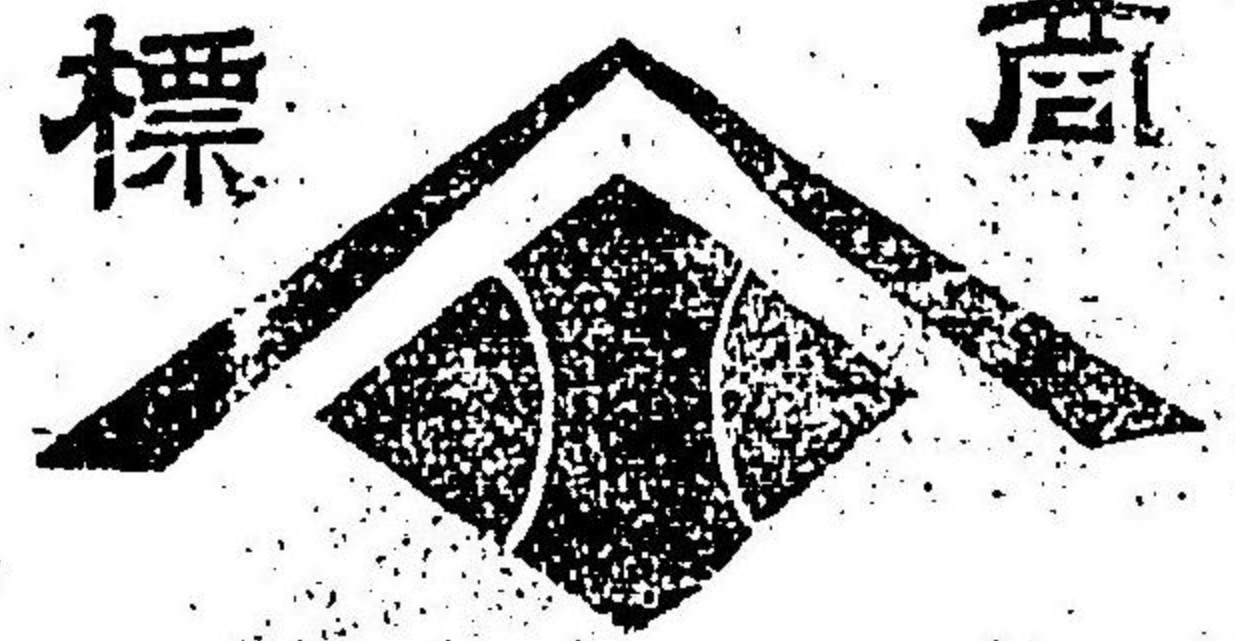
御料理

多摩市智頭町道片原角

成成子



標 商



黒郷東一名染子榔栳

所染色萬

染糸乃い張洗拔美志

町新市取鳥
場工染川小

標 商



具道入めよ

所造製物指

目丁一町階二市取鳥

店商郎次清山横

愛國堂廣告

醫療用藥品工業用
 藥品賣藥原料藥品
 化學用藥品醫療器
 械染料洋酒洋食料
 品各國有効賣藥製
 紙用藥品卸小賣商

藥劑師 山田芳藏
 鳥取市鹿野街道筋内市角

數千五百五十七坪にして大祭は二月十五日なり。

佛 寺

龍峰山興禪寺

栗谷町にあり。黄檗宗にして宇治萬福寺末に屬す。寺記を按ずるに天正年間池田輝政公
 美濃國岐阜に一寺を建立し臨濟宗湖叔を請じて龍峰寺と號す。湖叔の後湖庵をへて暫く
 無住。後菊潭禪師を請じ改めて開山とす。京都妙心寺末たりき。慶長六年源政公攝州姫
 路に轉じ同八年一世忠繼公岡山城に移らるゝに及び當寺も轉じて岡田に移り池田家の菩
 提所と定めらる。寛永九年光仲公鳥取に國替によりて亦今の地に移れり。時に明僧隱元禪
 師始めて來朝し黄檗を振起して天下禪門を風靡しければ當寺の四代提宗五代活禪兩和尚
 其門に入りて大に信を傾け歸山の後黄檗に換派しけり。元祿年間六代千岳和尚に至りて
 寺號を龍峰山興禪寺と改め宇治の萬福寺末となる。藩主の歸依淺からず寺祿三百石を領

敷千五百五十七坪にして大祭は二月十五日なり。

佛寺

龍峰山興禪寺

栗谷町にあり。黄檗宗にして宇治萬福寺末に屬す。寺記を按ずるに天正年間池田輝政公美濃國岐阜に一寺を建立し臨濟宗湖叔を請じて龍峰寺と號す。湖叔の後湖庵をへて暫く無住。後菊潭禪師を請じ改めて開山とす。京都妙心寺末たり。慶長六年輝政公播州姫路に轉じ同八年一世忠繼公岡山城に移らるゝに及び當寺も轉じて岡山に移り池田家の菩提所と定めらる。寛永九年光仲公島取に國替によりて亦今の地に移れり。時に明僧隱元禪師始めて來朝し黄檗を振起して天下禪門を風靡しければ當寺の四代提宗五代活禪兩和尚其門に入りて大に信を傾け歸山の後黄檗に換派しけり。元祿年間六代千岳和尚に至りて寺號を龍峰山興禪寺と改め宇治の萬福寺末となる。藩主の歸依淺からず寺祿三百石を領

立川町四丁目にあり。天台宗にして元東照宮の別當たりしが明治二年神佛混淆を禁じ東照宮を榑谿神社と改め大雲院を其の末靈光院の地に移轉せしむ。即ち今の地なり。慶安三年池田光仲公の創建を係り其從弟公侃を以て住職とす。公侃は松平石見守輝澄の六男にして天台僧正の高弟あり。文化十二年輝澄の法號大雲院を取つて寺號とし寺祿五百石を領したり。境内坪數千五百六坪鐘樓を入れ右に秋葉堂左折して庫裡大師堂地藏堂本堂文殊堂等あり。庭内樹木頗る多く其北端に泉池を穿ち小島に辨天祠を鎮し池中に多くの白蓮を植う。四時の賞觀愛すべし。寶物數多あり。國寶第一種なる佛像毘沙門天惠心僧都作を首め六十九点。第二種嵯峨天皇後光嚴天皇聖武天皇二條院御震筆を首め二十九点あり。尙此他にも數多あれども愛に之を畧す。

智光山慶安寺

淨土宗として寺町にあり。古は寺祿二百石を領し大雲院興禪寺龍峰寺と共に四箇寺の一たり。阿彌陀觀音を本尊とす。

撰擇山本願寺

淨土宗京都知恩院末にして寺町慶安寺に隣る。寺傳を按ずるに天正九年鳥取城主宮部善群房榮譽和尚に歸依して當寺を創建せしむ。樓門上の釣鐘は宮部侯の時代に浪士和田五郎右衛門範元氣高郡伏野の海邊に龍女に逢ひ其の願を受け之を納めたるものあり貝殼の附る居る所海水の浸蝕せる痕等を見るべく今に鐘が崎と云へる所伏野海邊にあるは當時の遺跡たるを知るべしと傳へ其割れ目あるは池田備中守長吉鳥取城普請の時役夫等指揮の爲め寺々の鐘を城中に釣り置きて立錫を以て叩きたるに依ると云ひ本堂に鎮せる本尊阿彌陀如來は聖德太子の眞作にして榮譽和尚城主の命に依りて其前任の毘後國入美村本願寺より海路之と迎へたるに中途に難船一且海底に没したりしものありと稱す。天竺地蔵の金銅佛を始め五十餘の地蔵は世人の信仰深く祭日には參詣の者群集して境内雜沓を極む。明治の強賊櫻田作一の墓本堂の側あり。

正榮山妙要寺

寺町にありて本願寺の西あり。日蓮宗とす。境内に藩儒十街晚庵の墓あり。

三味山一行寺

淨土宗にして寺町にあり。客殿の庭に山名時氏の石碑と稱するものあり。
久松山眞教寺

淨土宗京都智恩院末にして川端一丁目にあり。寺記を按ずるに天文十四年丁達和尚の創建にして當城山水道谷木戸の内におりしが後智頭街道筋惣門附近に轉じ光政公入國の時今の地に移りしと云ふ。山門あり若櫻街道に向ふ。之を入れば右折して藥師堂鐘樓左折して庫裡本堂祖師堂等あり。阿彌陀佛の立像を本尊とす。側らの佛堂に鳥取籠城に有名なりし吉川經家の位牌あり。古牌は臺座も抜けて其儘に捨置ありけるが天明五年長州侯の氏族防州岩國の城主吉川衛士より是を再造し殉死三人の位牌をも納めたりと云ふ。

表
平等院殿前吏部兼因幡權守寂輔空心大禪定門

裏

吉川駿河守元春親族石州福光城主吉川式部少輔藤原經家牌
天正辛巳十月二十五日代諸軍士於鳥取城中自殺
殉死家臣福光小三郎若鶴甚右衛門與力坂田孫次郎
天明乙巳季春經家十一世孫防州岩國世郷吉川衛士直兩再造

寶珠院

眞言宗高野山金剛三昧院末にして南本寺町にあり。寺記を按ずるに當院の眼白不動明王は奥州不動寺本尊東京小石川新長谷寺本尊と共に興教大師御作三昧の隨一にして往古參河國松平村(東照神宮護生の地)に鎮座せしめて寺を圓明寺と號したり。東照神君專らこの本尊に歸依し給ひ御出陣の附當寺住職に御開運の御祈禱被三仰付けるに明王感應新にして御殿功不空。之に依て御寄附の品多く有りし中に禁裏御所より御拜領の桐金紋御茶等當寺へ被下賜。故に今以て桐を當山の定紋とす。池田光政公又當本尊を深く

御信敬遊ばされ毎度の御陣に御祈願被仰付けるに明王は威力戦功に顯はれしとかや云
あ。池田侯姫路岡山を経て當地に移らるゝに及び當寺も三轉して當地に移り寺號を圓城
院と改む。祈願寺たる故を以て寺祿五十俵を領したり。安政年間亦寶珠院と改號す。明
治三十年會陽を始め福木を授けたれども今中絶す。空海眞筆の五大尊繪卷其他什寶多し
。因幡志の撰者安倍氏の墓護摩堂の後ろにあり。大儒伊良子大洲の墓またありし。

龍雲山眞宗寺

眞宗西本願寺末にして藪片原町にあり。天正中淨圓和尚の創立にして西宗寺と號し澤市
場にありと云ふ。澤市場は今の裁判所前通りあり。門を入りて左に經藏あり一切經を
藏す。正面に本堂あり。鬼帳として雲際に屹立し隱然四隣と壓す。蓋し市内第一の大伽
藍にして十二間四面と稱す。境内に老松あり蜿蜒枝を垂るること十餘間風趣に富む。其
昔水汲の植ゑたりしもの耐らすもかかる名松となり以後幾百年を経たるか知るべからざ
と云ふ。

瑞松山景福寺

曹洞宗永平寺末にして市の西方新品治町にあり。貞治三年通幻和尚の創建に係る。當寺
は元荒尾家(倉吉)歸依の禪林にて同家先祖代々の菩提處あり。荒尾氏は其在所よ於て各
景福寺を建立しける故今に姫路、須本(淡路)岡山にあるものと當寺と四景福寺と稱ふと
云ふ。山門を入りて正面に本堂あり。眞宗寺に次きたる大伽藍にして釋迦牟尼佛を本尊
とす。右に禪堂左に庫裡鐘樓大藏經を藏せる經藏等棟を列ぬ。羽生郷右衛門の石碑、本
堂左方の眞向に見ゆる茶磨形の石碑是あり。大日本人名辭書増訂に氏の傳説をわぐるこ
と頗る詳細あり。曰く郷右衛門は何れの國の産なるやを知らず。慶安中浪人して江戸に
居る。同四年由井正雪の事あるに當り幕府悉く江戸在住の浪人を呼び出し評定所よ於
て委細の取調をす。郷右衛門も亦呼出さる。郷右衛門法廷に入り喝呼して曰く拙者は
羽生郷右衛門と云ふ浪人あり。身不肖ながら天下の爲めに難を除き害を防がんとするを
もて平常の志とす。由井正雪の如き反者に黨する痴人にあらず。若し廷丁の棒端拙者が
身に觸るゝ事あらんには多人といへども畏る所なし。必ず酬ゆる所あらん。詳に尋
問の條を答辯し靜に引退く。郷右衛門時に垢染たる木綿の單衣を衣るのみ。(正雪の自殺

は慶安四年七月二十六日の事なれば此時は同年の八月にもやありけん。而して其の尋問に應ずる時に至り舉動従容として追らざり。然も凛然犯すべからざる威儀あり。評定所一座擧りて感歎せざるはなく當時糾問せし浪士中第一等の人なりと評す。評定所留役鈴木某は因州侯に因故あり。此の事を候へ語る。候乃ち有司に命じて急に之を辟さしむ。有司郷右衛門を藩邸に召して曰く卿何藝をか能くする。郷右衛門答へて曰く臣別に藝とする者な。唯飯粒を以て糊を作るの技は少しく人に異なるべしといふ。試みに推糊板を飯粒を盛りて與ふ。郷右衛門瞬間に推して糊とし之を練るに拍子を取り糊を空に弄るると恰も粟餅賣の粟餅に於けるが如く其の妙を極む。有司心中其の意外に驚き更問ひて曰く推糊の技は頗る感心せり。但し此の外武藝に於ては別に學ぶ所なきか。郷右衛門笑つて曰く武士か武藝を知るは矢師が矢を矧ぎ鍛冶が鐵を鍛ふと同じく固より言ふを俟たざるあり。然るを殊更何藝と知るやとの間に接し遊藝の事と了解して乃ち推糊の事を答ふるのみ。武藝に於ては弓馬鎗刀各々一斑を善くせり。但し其の能否の如きは傍觀の公評を俟さんと。乃ち其の試を受けしむるに其の技各々奥妙を極む。即時に三百石を以

て士とあし藩士は師範たり。當時劍術修行家の鳥取城下を經過する者必ず羽生を訪はざるはなく訪へば必ま自ら親しく其の對手となり勝負を決する者前後二十餘回にして一回も敗を取らざりといふ。貞享二年病みて没す。鳥取城下鑄物師町慶福寺に葬る。遺囑に墳墓を石臼の形状とあし之れに辭世の歌を彫刻す。「世の中をめぐりて因幡路にしばらく足を引いとる」云々。龍華院 西隣にありて當寺の子院なり。

法性山善久寺

曹洞宗にして新品治町にあり。當寺は元湯所村にありしを明治の初年大雲寺(今の地)を廢して善久寺を此所に移しと云ふ。釋迦如來を本尊とす。

深心山立忠寺

浄土宗にして新品治町にあり。天正四年大藏和尚の開基にして阿彌陀如來を本尊とす。元下臺町にありしが火災を恐れて此地に移りしと云ふ。荒木又右衛門の石碑門を入て左にあり。又右衛門は伊賀國荒木村の農にして(諸書に吉村とあれど石碑には保和とせり)と稱す鑿劍を好み柳生但馬守宮本無三四につきて諸流の劍法を極む。後郡山藩の

劔術師範となる。妻は松平忠雄侯(當池田家二代)の臣渡邊數馬の姉たり。寛永七年七月
 數馬の弟源太夫同藩河合又五郎に殺さるゝや數馬仕を辭して又五郎を逐ふ。又右衛門復
 た仕を罷め提携して諸國を周流し竟に江戸に劔法を教授す。越えて十一年仇を索めて奈
 良に至る。十月又五郎其の黨河合甚左衛門櫻井半兵衛等二十餘人を従へ大和の奈良を發
 して江戸に赴くに會ふ。又右衛門一行四人と之を伊賀上野に要す。七日黎明又五郎等上
 野城下を過ぐ。數馬突出して源太夫の復讐と呼び又五郎も迫る。又右衛門亦甚左衛門を
 斬りて馬より落し續き敵中に入り數人を傷く。數馬の若黨岡本武衛門岩本孫右衛門は
 半兵衛(十文字の名人)を斬つて馬より落す。既にして數馬又五郎戰方に酣あり。又右
 衛門呼びて數馬を勵ます。數馬乃ち勇を鼓して又五郎を殲す。數馬は淺手深手十三箇所
 を負ひ武右衛門は深手三箇所を負ひて其夜死す。又右衛門は僅に淺手一箇所を受くるの
 み。時よ年三十七。上野城主藤堂高次士卒を發して之を護送す。是時數馬の舊主忠雄侯
 既に卒す。嗣侯又遠く衛從を發して國に迎へ十五年八月十三日鳥取に着す。二人に祿各
 千石を給し使者を郡山藩に遣る。同月二十八日又右衛門病死して玄忠寺に葬る。寺は當

時下臺町にありし頃あれば後に今の地に改葬せしあらん。又一説に河合の黨の狙撃を避
 けて偽りて又右衛門病死すと稱し終身境を出でしめざりと云ふ。石碓は藩主より建工
 られたれど壞敗せしを明治三十五年八月當地聯隊將校富田、田村其他諸氏修築せり。金
 網を張りたる古碓は即ち是あり。畫家黒田稻阜の墓又當寺にあり。稻阜は近代の畫家と
 して名あり。常に庭内に鷹及び鯉魚を飼ひ熱心に之を寫して妙技を得たり。中にも其の
 鯉魚は最も眞に迫り激濁として將に奮幅より跳り出でんとする狀あり。外人之を觀て未
 だ寫眞を知らざる日本畫家にしてかくも巧妙なる寫實畫をいかにして畫きたるかど感歎
 措く能はず。竟に其一幅を英國の博物館に陳列したりと云ふ。稻阜曾て法號を自撰して
 響流軒海外稻阜勝士とせり。果して其名海外に及ぶ。奇と云ふへし。

萬年山天德寺

曹洞宗氣高郡讓傳寺末にして市の北端湯所町にあり。市内舊寺の一にして元湯山村多年
 池の近傍にありて長福寺と號せしを今の地に移し禪宗として萬年山天德寺と改號し永馨
 を以て改宗の始祖とすと云ふ。蓋し元龜年間の事ならん。舊記一として存する物あり由

緒を正すに由あり。巨大の赤門ありて中央に萬年山と額し古作の赤力士其左右に侍す。之を入れは札所の觀音を左に見石段を昇りて樓門あり。本堂は南面して右に禪堂左に庫裡浴室方丈居間等を控へ本尊釋迦牟尼如來正面に鎮す。往時は三千軒の檀家を有して數十の僧侶常に法を營み堂宇壯大よして鳥取の町敷に均しき間敷を有せしと云ふ。明治三十六年認可僧堂とある。本堂の右塵承の上よある鹿は左甚五郎の作にして絶妙の技神に入り毎夜走り出でて田畑を荒しける故足を打折り置きたりと稱し杉戸よ壽ける。雖は夜々時を告げける故眼に針を指したりと傳ふ。然るに明治卅九年の春火を失して本堂庫裡等皆焼亡し鳥取の名刹一夜にして烏有に歸し一偉觀を失ふ慨々べきか。今庫裡のみを建てて本堂を造るに至らず。昔日の面影を見るべきものはたゞ門扉の大あると境地の廣さとのみあり。

最勝院

眞言宗高野山多聞院末にして湯所町天徳寺の東上にあり。寺記を按するに和銅二年法道仙人美濃國に一寺を創立し寶藏院と號す。天正中池田輝政公の祈願寺とある。後池田侯

の移封と共に姫路岡山を経て當地に移り池田家と最も親密なる祈願寺たるの故を以て護摩料二百俵を給はり維新の際に至る迄は宏壯なる御監森嚴なる樹木猶は舊觀を維持して寺町一行寺の後にありしが明治三年養壽院は當院に合併せられ此處に移る。養壽院は元山頂に在りて如意山久松寺と號し天長九年弘法大師の開基なりと傳ふ。本堂は北面して雁金山に對し本尊藥師如來は法道仙人作にして其他由緒ある什寶多し。境内坪數千八百三十四坪ありて風景奇絶なり。詳細は前章如意山八勝に譲る。本堂の東上に鎮守堂あり藥師如來を本地佛として祠る。木山さんと號し世人の信仰深く毎月二十九の祭日には參詣の者踵を接す。正牆蕪の墓本堂の北側よあり。

鷲峰山常忍寺

日蓮宗下總國正中山法華經寺の客末にして西品治村(字行徳)の北側にあり。市の北端を去る町許に過ぎずして表門に達すべし。門を入りて左に開祖日常の墓堂鐘樓正面に本堂右に書院庫裡經藏等あり。本堂には本尊なる一尊四菩薩及び日蓮日常兩上人の厨子を鎮し經藏には大藏經二千四百部及び其他の佛書八千餘部を藏すと云ふ。寺傳を按するに當